令和元年度

地域活性化事業
（実践型地域活動事業・リカレント教育事業）

実施報告書

大学等による「おおいた創生」推進協議会

大学等及び学生の力を活かし
大分地域の活性化を目指します

目　次

1　ごあいさつ

2　令和元年度 実施事業一覧

4　実践型地域活動事業 実施成果

22　実践型地域活動事業 参加者アンケート

24　リカレント教育事業 実施成果

33　リカレント教育事業 参加者アンケート

35　成果報告会及び優秀賞者発表

ごあいさつ

大学等による「おおいた創生」推進協議会
高等教育活性化部会長

日本文理大学　副学長

島岡　成治

大学等による「おおいた創生」推進協議会 高等教育活性化部会では，大分県内の地方自治体，産業界等との連携を図りつつ，進学者確保や地域課題の解決等を協働して行うことで高等教育の活性化ひいては地方創生につなげることを目指し活動を行っています。今年度は，大分県よりご支援をいただき，地域活性化をテーマとした学生の実践型地域活動事業及びリカレント教育事業を実施することができました。

実践型地域活動事業は，活動を通じて学生が地域課題に気づくこと，課題解決を図ることで地域に貢献すること，学生との 交流を通じて地域が活性化すること，また，学生の地域への愛着を深めることをねらいとしています。本年度は，５つの大学等において18の事業を実施し，約280名の学生が参加，県内の様々な地域に出向き，地域の実情を知るとともに，課題解決に向けての提案や行動を実施しました。地域の課題は限られた期間の中での活動だけで解決できるものは少なく，長期的・継続的な支援や活動が必要であったり，学生が地域の中で解決行動ができる人材として育っていくことで将来的な解決につながったりするものなど，様々なものがあります。本事業での学生と地域との交流が課題解決への一歩となることを願います。

リカレント教育事業では，社会人を対象としてスキルアップや自己研鑽につながったり地域のよさを発見・再認識することにつながる公開講座や講義を実施しました。５つの大学等より10の講座が提供され，県内各地より約400名の社会人（一部学生含む）のみなさまにご参加いただきました。高等教育機関に従事する教員の専門知識を地域に還元し，地域の人材育成や地域への愛着を深めることで地域の活性化につながるものと考えています。

今後も大学等が連携し，大分地域の活性化に向けて活動していきたいと考えております。本事業の実施にあたり，ご協力，ご支援いただいた地域の皆様，関係者の皆様に心より御礼申し上げるとともに，引き続きのご理解，ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

実践型地域活動事業

大学等の教員が企画し、学生と共に地域に直接出向き、地域課題等の解決を図る事業です。
この活動を通じて学生が地域課題に気づくこと、課題解決を図ることで地域に貢献すること、学生との交流を通じて地域が活性化すること、また、学生の地域への愛着を深めることをねらいとしています。

No.	申請大学等	事　業　名	申　請　者	関連地域	頁
1	大分県立 看護科学大学	出前健康・体力チェック！	理事　稲垣　敦	大分市	4
2	日本文理大学	きばるプロジェクト	工学部建築学科 教授　近藤　正一	竹田市	5
3		四季を通じた糸ヶ浜海浜公園における 滞在学習型プログラムの開発	経営経済学部経営経済学科 教授　永松　昌樹	日出町	6
4		スポーツフィッシングがもたらす 地域への効果計測	経営経済学部経営経済学科 教授　今西　衞	佐伯市	7
5		高齢者向けものづくり教材の開発	工学部情報メディア学科 教授　鈴木　秀男	豊後大野市	8
6		佐賀関半島における観光交流人口拡大に 向けたツリーハウス建設プロジェクト	工学部建築学科 教授　吉村　充功	大分市 （佐賀関）	9
7		地方創生のための学生目線による地域企業 リクルートビデオ制作プロジェクト	工学部情報メディア学科 教授　小島　康史	大分市	10
8	別府溝部学園 短期大学	大麦料理を作って食べて元気になろう。	食物栄養学科長 牧　昌生	玖珠町	11
9		地域の子ども達と共に創る人形劇制作 及び人形劇公演の取組	幼児教育学科 准教授　髙濵　正文	日出町	12
10		地元の野菜をもっと食べよう！ ～地域の野菜を知ろう　そして　子どもたちに伝えよう～	食物栄養学科 教授　望月　美左子	大分市・別府市	13
11	立命館アジア 太平洋大学	起業による地域創生（アイデア形成から実現へ！）	アジア太平洋学部 教授　須藤　智徳	別府市・臼杵市・ 日田市	14
12	大分大学	県産木材を利用した木育プロジェクト	教育学部 准教授　中原　久志	日出町	15
13		共生社会の実現に向けて ～老若男女に、笑顔の花を咲かせよう～	医学部 助教　土器屋　美貴子	佐伯市	16
14		IoT を用いた農業における課題解決	理工学部 教授　大竹　哲史	臼杵市 （野津町）	17
15		大分大学 STEAM Lab. サイエンス × テクノロジ × アートの融合 ～大分の未来を創る子どもたちの夢を育むプロジェクト～	教育学部 教授　竹中　真希子	国東市	18
16		きたく部 2019 拡大版	教育学部 准教授　清水　良彦	大分市 （稙田地区）	19
17		首都圏からの若年層おおいた観光誘致のための モデルツアー提案に関するプロジェクト	経済学部 教授　大井　尚司	大分県内全域	20
18		大分観光バーチャル体験プロジェクト 2019	理工学部 教授　古家　賢一	竹田市	21

リカレント教育事業

社会人を対象として、スキルアップや自己研鑽につながったり、地域のよさを発見・再認識することにつながる公開講座や講義を提供する事業です。
地域の人材育成や地域への愛着を深めることで地域の活性化や定住につながることをねらいとしています。

No.	申請大学等	事　業　名	申　請　者	関連地域	頁
1	大分県立 看護科学大学	おおいたの地域医療の課題と ナースプラクティショナーの可能性	看護学部 教授　小野　美喜	大分市	24
2	日本文理大学	『宇佐駅』再生と『道の駅』創生を始点とした クラブライフの考え方	経営経済学部 経営経済学科 教授　永松　昌樹	宇佐市	25
3	別府溝部学園 短期大学	（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした 大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業 ～農業と世界のつながりと 国内唯一の七島藺（シチトウイ）～	食物栄養学科長 牧　昌生	国東市・別府市	26
4		（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした 大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業 ～荒木川流域を巡り、世界農業遺産の農文化と 自然環境を体感する現地研修～	食物栄養学科長 牧　昌生	国東市	27
5		『大友宗麟のもとで豊後に花開いた西洋文化とその後』 ～ゆかりのグレゴリオ聖歌の歌唱や 関連遺跡探訪を通して～	幼児教育学科 講師　松尾　佳保 食物栄養学科 准教授　土谷　知子	大分市・臼杵市	28
6	東九州 短期大学	いきいき食生活支援プログラム ～食に関する活動において活用するための 知識とスキルを学ぶ～	食物栄養学科長 篠原　壽子	中津市	29
7	大分大学	小学校教員のためのプログラミング＆ AI リテラシー教室（竹田市）	教育学部 教授　市原　靖士	竹田市	30
8		小学校教員のためのプログラミング＆ AI リテラシー教室（大分市）		大分市	
9		教師のための国語科授業開発力育成講座	教育学部 准教授　花坂　歩	大分市・別府市	31
10		研修医・若手医師のための、 大分県麻酔科学アカデミー	医学部 助教　山本　俊介	大分市	32

大学等による「おおいた創生」推進協議会　実践型地域活動事業2019

出前健康・体力チェック！

大分県立看護科学大学

稲垣敦（理事）、濱中良志、赤星琴美、佐藤愛、秦さと子、石丸智子、田中佳子、森加苗愛、甲斐博美、堀裕子、稗田朋子、吉川加奈子、桑野紀子、丸山加菜、安部真紀、樋口幸、篠原彩、影山隆之、坂本晴生（事務局）、清末敬一朗（理事）、藤内美保（理事）、村嶋幸代（理事長）

1. 目的

県内のイベントで、学生が県民の健康・体力チェックを行い、県民の健康や運動に関する意識の高揚、学生の地域に対する理解と愛着を深め、県民のニーズの把握する。

2. 健康・体力チェック等の実施

大分県総合型クラブSCネットワーク、おおいた広域スポーツセンター、大分県教育委員会、大分県体育協会、大分県内44の総合型地域スポーツクラブ（会員数17,000名）が昭和電工武道スポーツセンターで開催した「総合型地域スポーツクラブ交流会」（11/23）で、本学学生18名が健康・体力チェックとアンケート調査を実施した。

健康・体力チェックは、学生が血圧、ストレス（唾液アミラーゼ濃度）、肩こり（筋硬度）、骨評価、身体部位別筋量・脂肪率、握力、垂直跳び、長座体前屈、片足立ち、ステッピング、全身反応時間を実施した。

参加者対象のアンケートは、性別、年代、健康・体力チェックに参加した理由、運動実施状況、運動をする理由・しない理由、体力測定の必要性、健康・体力チェックの必要性、本学の認知度、本学や看護職に期待すること、このイベントの評価、他に希望するチェック項目からなる無記名自記式のアンケートを、学生が配布・回収した。また、希望者には、運動のパンフレット（運動で未来をつくる！、健康・体力づくり事業財団）を配付した。

学生対象のアンケートは、指定された項目（性別、所属、出身地、参加した動機、気づき、満足度、地域の理解度、感想・意見・要望）に、地域への愛着に関する項目を加えて実施した。

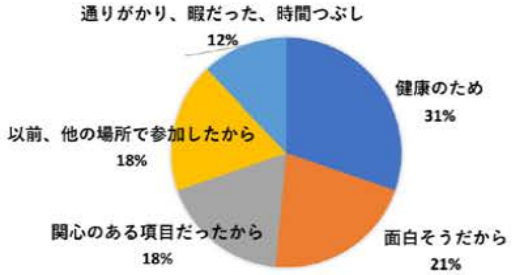


図1. 参加者が出前健康・体力チェックに参加した理由

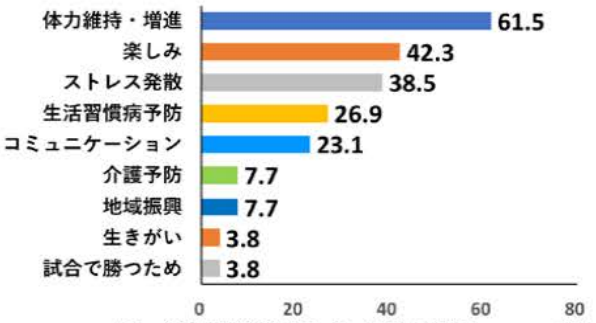


図2. 参加者が運動やスポーツをする理由

3. 結果

参加者対象のアンケートには26名が回答した。その内訳は男性2名、女性24名、30歳代3名、40歳代5名、50歳代1名、60歳代7名、70歳代7名、80歳代3名であった。今回の出前健康・体力チェック！の評価は、良かったが100%、また、未記入者1名を除き、全員が今後もこのような機会（＝出前健康・体力チェック！）があると良いと答えた（その他、図1、2を参照）。

学生対象のアンケートには、14名が回答し、全員が女性で、出身地は大分市5名、大分県内（大分市以外）4名、大分県外5名であった。この事業に参加した動機は、「内容に興味があった」9名、「地域貢献に興味があった」2名、「その他（教員の勧め）」1名であった。地域の課題には4名が気づき、3名が気づけなかったと答えた。気づいた内容は、「血圧が高い人が多いこと」、「体力の個人差が大きいこと」、「運動の機会が重要であること」、「若い人の参加が少ないこと」等であった。また、10名が「地域の活性化に貢献できた」と答えた。この事業に「満足した」13名、「どちらかと言えば満足」1名で、その理由は、「楽しかったから」5名、「人と交流する・接する・話すことができたから」5名、「地域の人々が健康に関心を持っていることを知ったから」3名、「地域の人々の健康状態を知ったから」2名、「体力に個人差があることを知ったから」1名、「体力測定がなかなか受けられないことを知ったから」1名、「自分の健康状態を知ろうと思ってもらえたから」1名であった（その他、図3を参照）。

4. まとめ

- 出前健康・体力チェックへの参加動機から、出前健康・体力チェックが健康意識を刺激できることがわかった。
- 参加者が様々な目的で運動を実施していたことから、出前健康・体力チェックではこれらの目的に対応したチェック項目や要素を取り入れてゆくことが重要である。
- 今回のようにスポーツや運動を実施している者にとって、健康・体力チェックはたいへん魅力的で、必要性を感じていたことから、出前健康・体力チェック及び今回の実践型地域活動事業の意義が示唆された。
- 出前健康・体力チェックは、担当した学生の地域への理解や愛着を深めた。
- 参加者が喜んでくれたことや他人とうまく交流できたという成功体験が地域の活性化に貢献できたという認識や自己有能感に繋がり、これが自己効力感を高め、学生に楽しさや満足を与えたのではないかと推測された。

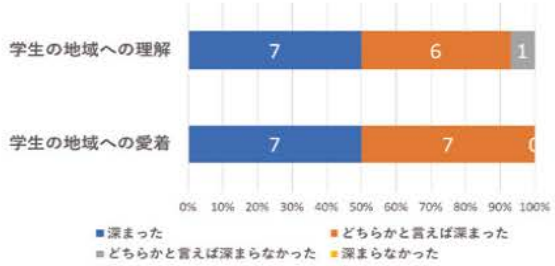


図3. 学生の地域への理解と愛着の変化

大学等による「おおいた創生」推進協議会　実践型地域活動事業

きばるプロジェクト

[指 導 者] 日本文理大学 建築学科 教授 近藤 正一／准教授 猪永 康仁
[協 力 者] アーティスト 森 貴也（彫刻家）／atudio/CASAS一級建築士事務所 吉郷 伸二（建築家）
／竹田市 企画情報課 まち未来創造室 室長 本田 広行／竹田市地域おこし協力隊 山崎 未純美 [敬称略]
[活動地域] 竹田市大字城原１０３１（城原神社近くの民家）およびその周辺

[参加メンバー]
卒業生：本中道 梅子
4年生：村田 長彦（リーダー）
　　朝田 基樹　星田 比奈子　成重 文音　廣田 紫紗子　福島 宏希　宮越 翔
3年生：江藤 まどか　梶原 智歌　冨久島 直保　木戸 那月　白石 華大　田川 麗鳳
　　堀内 成那　中田 沙織音　羽田 義刑加　平元 謙伍　松崎 祥治　森山 紫琳
　　山本 晃介
2年生：長吉 優貴　川村 唯　ZHAO GUOYAN
1年生：川添 康平　釘宮 満琴　沙月 晴日

はじめに

大分県の統計によると、空き家は平成 38 年 10 月時点で 97,700 戸あり、空き家率は 17%となっている。

また、「大分県人口ビジョン」によると、九州の県内を除く各県と比較して減少幅は最も小さいものの、大分県の人口は現在、毎年およそ 8 千人ずつ減少しており、今後も減り続ける見込みである。

一方で、大分県経済研究所などの調べにより、新設住宅着工戸数はむしろ増加傾向にあることが明らかになっている。

つまり、地域に偏りはあると思われるものの、全体的には、空き家は今後も、着実に増えていくと思われる。

空き家の所有者には管理責任があるが、徐々に果たすことが難しくなってきている。

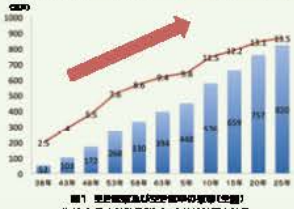


図1 空き家率及び空き家戸数の推移（全国）
資料：総務省統計局「住宅・土地統計調査結果」

取り壊すことも管理のひとつのあり方ではあるが、私たちは、住宅ストックをより簡易な方法により有効に活用するためのリノベーション手法が開発できないかという立場から、地域文化の継承と新たな智慧を生み出すための方法について研究してみたいと考えている。

表1 空き家・新設住宅数（全国）　（戸）

	総数	一戸建	長屋建	共同住宅
総数	8166900	2989200	464900	4711900
二次的住宅	412900	290900	7100	121100
売却用の住宅	304200	104500	7400	192400
賃貸用の住宅	4301100	248800	282800	3769500
その他の住宅	3163800	2344400	167600	710900

資料：総務省統計局「平成28年住宅・土地統計調査結果」

城原の家（旧佐藤邸）

2018 年度の取り組み

4月17日（第1回）

キックオフミーティングを兼ね、現地視察を実施した。写真を撮ったり質問したりあちこち眺て触って、それぞれに構想を練った。

廃氏の現在の仕事場も見せていただき、多数の作品について直々に解説を加えていただいた。

4月19日（第2回）

第１回の現地視察を踏まえたミーティングを実施した。これまでの経緯や作品のコンセプト、制作作業の様子などを詳細にご説明いただいた。山崎氏より、これまでに携わってきた仕事の説明をいただき、学生たちよりアイデアを発表した。

5月18日（第3回）

ふつうは照明というと光のデザインをするものだが、あえて影に着目した提案や、外部に水盤を設け、外壁に直圧の作品で使用される材料である鉄を使い、徐々に錆がさびていくことにより最初のうちは外壁に反射する光が徐々に赤い光線へと変わっていく時間軸をデザインするような空間の提案など、学生によるアイデア模型について担当ごとに発表した。

6月15日（第4回）

OPAM 大分県立美術館にて、これまで建物の所有者であった入江氏と竹田市役所 工藤氏を交えて、ゲストハウスにリフォームするための学生提案を披露した。

まずは、この家で生まれ育った入江氏より建物の歴史を説明していただき、およそ 100 年の歴史があること、また当時、地域の交流拠点となっていたことなど、遠い昔に古くて新しい知見が得られた。

その後、庭枠を観覧仕上げにすることで室内からの景色を切り取り、庭枠に写った色を室内に取り込むアイデアや、ゲストルームの一角に和室コーナーをつくり、仕切りに設けた障子にステンドグラスを用いてステンドグラスから広がる明かりを楽しむアイデアなど、多数のアイデアが学生から説明された。

6月21日（第5回）

実地調査を実施した。学生たちは、それぞれの思い描くインテリアデザインを膨らませながら、まずは周辺や現地視察に赴き、建築に対する感覚を育んだ。

7月17日（第6回）

前期最後のプレゼンテーションを行った。全体のテーマを「光と影のリフレクション」とし、担当部分ごとにアイデアを提案した。

原にステンドグラスを用い、昼は外からの光を部屋に深く落し込み、夜は反対に室内の照明をステンドグラスにて、夜間にその部屋を利用する人だけではなく、そこを通る地域の方々も楽しめる光にするアイデアや、障子に丸をモチーフにしてデザインを作り、光があたってできる影を楽しむアイデアなど大変興味深いアイデアが提案された。それらを踏まえ、より光と影がきれいに映るにはどういった素材を使うといいのか、建物の構造などのようにしていくかなど、具体的な意見も交え、今後の実施に向けて話し合った。

8月9日（第7回）

草刈り・竹林伐採、天井地しなどの作業を行った。廃材庫の朝氏、プロデューサーの山崎氏、建築家の宮郷氏のほか、大工の北村氏、チームラボの黒澤氏が来訪し、学生とともに作業し歓談して交流を深め合った。

（2019 年 3 月 3 日　大分合同新聞朝刊より）

2019 年度の取り組み

古民家の改修には費用がかかり、経済的負担が大きい。この問題に対して、大規模な修繕ではなく、インテリアの変遷による簡易な環境構築方法に着目し、「竹の伸縮式構法による仮設構造物の設計」をテーマとして取り組んだ。

① 4年生スタディ模型制作：伸縮式構法による仮設構造物の設計（授業時間15週間）

例1
伸縮性を持ちながらつぶれない、開かせる部分を持って開かせ方を考えるためのスタディ。

例2
シンプルな四角形の４辺を伸ばすことで、自然にドームが出来る。開き方を変えると部分的な空間が出来る。

例3
例2のように伸ばしたあと対角に上部にこもり、新しく開いた部分をやはりつぶれない空間が出来た。

例E.1
例2の部屋を自分用にすることにより自分だけの空間、社会的な空間、共同的な空間を作れる。

② 3年生 設計課題：竹による仮設構造物の提案（代表例）（後期約週15週間）

「nest」　江藤まどか
「nest」とは「巣」という意味です。外見は鳥の巣をイメージしています。巣あたちが暮っている様子を観察し、そのような、彼らが落ち着ける温かみのある空間になってほしいという思いで制作しました。

「傘」　平元謙伍
傘は、雨から降ってくる雨だけでなく、雪下時からも人を守ってくれます。屋内に竹を張り巡らせることで、地震の際、居住者を守るための傘になってくれるようなデザインも考えました。

「くるげ」　冨久島直保＋白石華大
太いひごで大きくフレームを構成し、シンプルな骨組みの中に、さらに細部の部を埋く細いひごを放射状になるように組み込みました。平面の構造を変換させ、転用することで、竹のしなやかな曲線による自然なドームが出来上がります。

③ 有志学生によるモックアップ製作：城原の家（旧佐藤邸）における実地研修（12月27日）

協力者の皆さまのご協力をたまわり、竹林みによる仮設構造物を現地にて実際に制作・設置した。これまでのメンバーにこだわらず、建築学科の 1~4 年生から自主的に協力してくれる有志学生を広く募ったところ、8 名の学生が集い、現地での制作を実施することができた。これまでのスタディを活かし、原邸によって固定し合うことで成り立つ構造である。今回製作した仮設構造物は、一室を覆う巨大なランプシェードとして活用できる。講評終了後、森氏、宮郷氏、山崎氏より、これまでのワークショップの成果とともに講評・講評・講評をしていただき、今後の活動につながる、有意義な意見交換会を行った。2 月 15 日、16 日にグランツ竹田で 2 日間、地域おこし協力隊の報告会が予定されており、学生も参加し、その場でパンフレットをお配りして本事業の内容を地域のみなさまにお示しし、ご助言をいただく。

(step 1) 3D モデルと大学の工房での試作
(step 2) 城原の家でフレームを組作する。
(step 3) 各自が竹を自由に組み込んでいく。
完成！
(上) 設計の様子　(下) 現地研修メンバー

大学等による「おおいた創生」推進協議会　地域活性化事業

四季を通じた糸ヶ浜海浜公園滞在型学習プログラムの開発

永松昌樹、坂元英毅、栗延孟（日本文理大学）

1．本事業の目的

日出町の活性化を検討するにあたって大神地域にある糸ヶ浜海浜公園を選定し、水辺レクリエーションや農水産物といった単独のコンテンツを強調するよりも、むしろ複数のコンテンツを組み合わせることによって創発されるイノベーションを狙った。コンテンツ間の相乗効果を発現させるために、それらに関わる多様な主体間のコミュニケーションや、相互理解が必要となるため、そのこと自体が将来的な価値共創にもつながっていくことも期待した。町民や関係団体とのミーティングを重ね、可能な限り多様な意見を抽出していくことに取り組んだ。

2．取り組みの内容

＜10 月 29 日～31 日、11 月 12 日～14 日＞

事業①「SUP 体験と糸ヶ浜海浜公園とその周辺の資源活用による学習プログラムのアイデア想起」

ワークショップ① SUP 体験 と糸ヶ浜の魅力発見

ワークショップ② 公園周辺の資源活用による学習プログラムのアイデア想起

＜12 月 10 日～14 日＞

事業②「滞在型学習プログラム（案）の具体化」

ワークショップ③ 学習プログラム（案）の作成

事業③「学生プレゼンテーションと住民との討議 」

＜12 月 20 日、大神地区公民館にて開催＞

ワークショップ④ 発表会準備、会場設営、リハーサル、発表、討論討議、会場撤収

3．事業の成果

33 名の学生たちは地域住民や行政関係者の方々との協創的事業①～③を通じて「地元のヒトが楽しんでいるからこそ、地域のウリ“魅力”となる。良さを一生懸命に伝えようとして、移住者の“夢”や観光客の“おもてなし”に繋がる。」というコンセプトを見出し、3 つの提案を行なった。

- “滞在”…個に特化した宿泊プログラム
- “移動”…スローな移動と食の行動プログラム
- “持続可能性”…コミュニティスペースの設置

発表会に参加した地域住民や行政関係者 28 名に実施したアンケート調査では、「地元の観光（地域）資源を活用して取り組みの成果を情報発信することで、地域の活性化につながると思う。」「今までになかった学生の方と地元の方の接点があり、今後小さなイノベーションが生まれる予感がしました。」「学生の熱意を感じたのがうれしかったです。現実に根差した内容で勉強になりました。」等、本事業に対して概ね良好的な意見が寄せられ、また、事業に参加した 33 名の学生も「学生だけでは気づかない視点での課題がわかったことが有益だった。」「自分たちだけでは気づけない事を地域の人から学べた。」「実際に行動して地域の方々と話すというプロセスがより実現可能なものと感じさせてくれた。」という声が寄せられた。

4．本事業のまとめ

日出町の財政はきわめて危機的な状況に陥りつつあり、同時に、行政課題は今後増大かつ多様化していくことが明らかである。日出町の行財政改革プランでは、行政運営の効率化を進めるとともに、多様な主体と連携し、共創するまちづくりを目指している（「日出町行財政改革大綱および第 1 次日出町行財政改革推進プラン」より）。すなわち、行政が対応できる財源やマンパワーが限られた中では、全ての課題に画一的に対応することは困難であり、町の強みを定義した上で、住民とともに持続可能なまちづくりを戦略的に進めていく必要に迫られていると言える。本事業は地域の課題に対して、地域住民と行政関係者に加えて、町を知らない学生が“新しい観点」から参画することによる活性化が生じることが確認できた。事業を一過性とせず、継続化の方策を早急にまとめたい。

【実践型地域活動事業】
スポーツフィッシングがもたらす地域への効果計測

日本文理大学経営経済学部
今西　衛・本村　裕之・山城　興介

1. 事業目的

中山間部の産業は農業・林業が中心であるが、少子高齢化や限界集落などの問題が顕在化してきており、地域活性化が喫緊の課題である。そこで、本事業ではスポーツフィッシングに着目する。

スポーツフィッシングでは、釣り具やボート、飲食費や交通費など様々な費用が発生し、支出金額は高額である。これらの層をターゲットとして、学生が道の駅など地域と連携し、スポーツフィッシングによって飲食・物販など地域にお金が落ちる仕組みを地域と協議しながら企画し、地域にもたらす需要予測のための調査・分析を行い、分析結果に基づいて地域に対して提案することを目的とする。

ブラックバスは、特定外来生物に認定され、自然環境を破壊しているイメージが先行している。大分県外に目を向けると、例えば、富士五湖を代表する河口湖はローカルルールを定めた上でブラックバスの放流事業を行い海外からもバス釣りのためにバスアングラーが訪れている。また、奈良県下北山村では世界有数の大型のブラックバスを釣る為に全国からバスアングラーが訪れて村をあげてバスフィッシングに力をいれてバスアングラーからは聖地とされている。さらに、滋賀県の琵琶湖もマザーレイクと称され、聖地として全国各地、また海外からも多くのバスアングラーが訪れている。琵琶湖はブラックバスのギネス記録が樹立されてもいる。

琵琶湖周辺にはバスボートのディーラーが店を構え、レンタルボート店や釣具店、など多くの釣り客で賑わい、プロアングラーによるガイドサービス業がとても盛んである。このように、スポーツフィッシングは海外を含め全国から集客が見込める観光産業となっている。

一方、ブラックバスは在来魚を食いつくしてしまう特定外来生物である。自然環境保護の面から考えると、この事業は否定されるべきものであり、学生と最初の議論では懐疑的であった。しかし、現在の池のほとんどは人工的に作られており、ダムに至っては治水、防災のため、既存の村を放棄し、自然環境を破壊して作られた人工構造物である。この人工構造物の中で生息している生き物はすでに、我々が守るべき日本の古来の生態系なのかという本質的な議論まで至った。

近年、池の水を全部抜くテレビ番組が人気を博している。特定外来生物を駆除すると言う面では効果的かもしれないが、多くの人手と費用が発生する。それよりも、河口湖や琵琶湖を例に、ダムなど、個体数の管理が可能なエリアにおいて、ブラックバスを経済魚として地域の活性化につながるのではないかとの考えに至った。

以上より、本事業の目的は、学生が主体となって、道の駅など地域と協働してスポーツフィッシングが地域活性化につながるような施策を実施するための基礎的なデータを集めることである。

2. 事業内容

2.1 漁業組合・自治体等へのヒアリング調査

バスフィッシングなどをはじめとするスポーツフィッシングについての現状や自然環境との兼ね合い、本事業において、学生が提案する地域活性化政策についてヒアリング調査を行った。

大野川漁協組合では、大野川水系では、渓流釣りができるため遊漁券などによる収入もあるとのことであった。逆に大分川漁協組合は、渓流釣りができないため、芹川ダムのブラックバスやワカサギの遊漁券が収入になるとのことであった。いずれも、本事業の調査に期待を寄せいていただいた。

佐伯エコパーク推進協議会がブラックバスを活用したイベントを実施するとのことだったので、そのヒアリングも行った。佐伯市もユネスコエコパークの一部なので、生態系の観点からこのようなイベントを実施したとのことである。竹田市においても、事業の趣旨説明を行い、調査の同意を得た。

2.2 道の駅ヒアリング調査

道の駅宇目と道の駅原尻の滝も、どこからお客が来ているのか、どのようなものを必要しているのかなど基本的なデータがないため、調査には前向きであった。

2.3 スポーツフィッシング実態調査

大分県内でスポーツフィッシングとして盛んな佐伯市の北川ダムはダムの貯水率が 10%を切ったため、調査実行不可能となった。

10 月の事前調査では、貯水率があったが、11 月には１０%を切っており、ボートを下すスロープまで水面が到達していなかった。

また、芹川ダムは、調査当日に釣り人がいなかった（理由不明）。

芹川ダムになぜか人がいない　道の駅の調査風景

なお翌日は多くの釣り人が訪れていたとのことだが、人員リソースを道の駅に振り分けたので、アンケート調査は実施できなかった。今後の課題としたい。

高齢者向けものづくり教材の開発

日本文理大学 工学部 情報メディア学科 鈴木秀男

１．概要

豊後大野市が抱えている課題の一つに、地域の高齢化がある。高齢化が進むことで、認知症などによる徘徊も深刻な問題となってくる。本プロジェクトでは、豊後大野市にある高齢者施設と連携し、高齢者向けのものづくり教材を開発している。本プロジェクトは平成28年度より継続しており、これまでに多くの教材を開発している。

開発している教材は、安全・安心で「目で見て、耳で聞いて、触って操作して」楽しめる教材である。ものづくりを通して、視覚や聴覚に働きかけ脳の活性化を図るとともに、学生や家族など周りの人とのコミュニケーションの促進や生きがいの認識にも繋がればと考えている。

２．事業内容

開発している教材は、マイコンを使用したプログラムで動作するものづくり教材である。マイコンとプログラミング技術は学科専門教育へもフィードバックされている。マイコンを中心とした電子工作を基本とした組立てが本プロジェクトでのものづくりとなる。しかし、対象が高齢者であることを考慮し、安全・安心・容易・時短で組立てられるように、ブレッドボード上での実装で完成するような教材を開発している。実装に関しては、独自の配線パターンと事前加工を施したジャストフィットする部品を用いるようにしている。

これまでのものづくり教室を通して、高齢者や施設担当者から多くの意見を頂くとともに、実施する側としても多くの気付きがあった。本年度は、これらの意見や気付きをもとに開発教材の改良・改善を実施するとともに、新規教材の開発についても検討している。

３．事業成果

３－１．開発教材

（１）アナログ版電子サイコロ（2種類）：ハードウェアとソフトウェアの見直しにより、目の表示とともに、音階が聞こえるように改良した。音階は目の数と対応しており、音を聞くことで目の数を把握することもできる。隠しコマンドとして、新規に、目の数と音階の関係を確認できる機能を追加した。

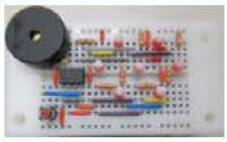
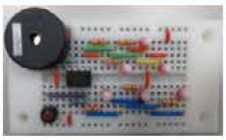
（２）クリスマス用イルミネーションボード（2種類）及びオブジェ：昨年度実施して好評であったグループでの新規教材となる。昨年はクリスマスツリー、クリスマスリース、行燈であったが、今年度は針金アート用と窓枠のイルミネーション用のボードを開発した。

（３）各種センサーボード（4種類）：教材の多様化として、体を動かしながら楽しむ教材も開発した。センサー技術を使い、体の動きと連動させて、従来にない楽しみ方を提案した。センサー技術として、温度センサー、明るさセンサー、力センサー、超音波センサーの4種類のセンサーボードを開発した。

（４）テルミンとリズムマシン：同一のボードでテルミンとリズムマシンの二つの機能を実現している。テルミンは近距離バージョン版と遠距離バージョン版を作成し、リズムマシンは長めのリズム版と短めのリズム版を開発した。隠しコマンドして、接近警告機能も搭載しており、五つの機能を一つのボードで実現している。

３－２．ものづくり教室

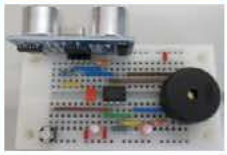
本年度は、上記の開発教材を使用して、3回ほど高齢者施設にてものづくり教室を開催した。事前の説明、組立て、動作確認、ゲームなどで、毎回3時間程度を要している。

(1)アナログ版電子サイコロ

(2)イルミネーションボードとオブジェ

(3)センサーボード



(4)テルミン

ものづくり教室の様子

４．まとめ

実際に教材を使った高齢者からは、「楽しかった」、「久しぶりに頭を使った」など肯定的な意見を多く頂いている。また、施設担当者からは、「高齢者の意外な面を見ることができた」といった感想も頂いている。

本プロジェクトの成果が、健全な高齢者の維持につながり、地域の活性化に役立てばと考えている。また、本取り組みは、高齢者だけでなく、社会復帰としての職業的な訓練や、障がい者支援にも適用できる可能性があり、発展的な関連性もあるものと考えている。

佐賀関半島における観光交流人口拡大に向けたツリーハウス建設プロジェクト

日本文理大学 工学部 建築学科
指導教員：吉村 充功・池畑 義人・中西 章敦
発表学生：3年 須藤 太貴・寺嶋 敏也

1．概要

現在、大分市佐賀関地区（旧佐賀関町）では、少子高齢化に伴う急激な人口減少に襲われており、この先、過疎化がさらに進行することが予想されている（2010年：人口1.0万人、高齢化率40.9%→2020年：0.9万人、50.5%→2040年：0.6万人、47.0%）。特に佐賀関小学校区である旧佐賀関町中心部は深刻である（2019年4月現在4,564人、高齢化率60.7%）。そのため、佐賀関地区を維持・活性化する一つの方策として、交流人口の拡大が模索されている。中でも、佐賀関地区にある佐賀関港を発着する「国道九四フェリー」の利用者は、全体として減少傾向にある大分県内各港の状況に反して年々増加しており、交流人口増大のターゲット層になり得る。

このような状況を踏まえ、本学科では2017年度から佐賀関半島の豊富な観光資源（関あじ・関さばの海産物に限らず、関崎海星館、関埼灯台、豊予海峡要塞跡、黒ヶ浜・ピシャゴ岩などのジオサイト群）を顕在化、磨きをかけることで交流人口や関係人口の増加につなげるため、NPO法人さがのせき・彩彩カフェや大分県建築士会佐賀関支部のご協力の下、関埼灯台周辺や関埼灯台入口駐車場、豊予海峡要塞跡等の草木の伐採活動、関崎海星館・大黒地区（佐賀関半島東南端にある高齢化率82%の超高齢小規模集落）と連携したビーチクリーン活動、佐賀関港での港マルシェ開催など、規模は大きくないが継続的な活動として取り組んでいる。以上の地道な活動により、大分市観光課にも活動が着目されるなど、現地での観光振興・連携の機運が高まりつつある。

本プロジェクトでは、佐賀関半島の観光振興の起爆剤として、来訪者が佐賀関半島からの絶景を堪能したり、自然の中で癒やしを体験できる「ツリーハウス」を現地（海星館近くの高台広場付近）に学生達の力で作り上げることを目的とする。今年度は現地のシイの木を活用した展望施設となる「ツリーデッキ」と誘導看板・道標の製作・設置を行った。

活動においては、建築学科の学生として、現地での調査、測量、設計、資材管理、施工、原価管理の一連の建設工程を実地で体験すること、（仮想的な施主である）地域住民とのコミュニケーションを行うことで、地域で活躍する建築技術者としての成長を促すことも目的の一つである。

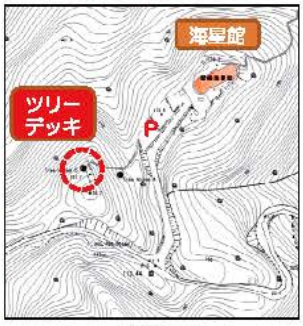
2．参加学生・協力者

【プロジェクト参加学生】建築学科3年：24名

【地元協力者】○ NPO法人さがのせき・彩彩カフェ　○ 大黒自治区
○ 大分県建築士会佐賀関支部　○ 関崎海星館

3．実施日程・内容　◎は現地、○は学内

○11月 7日（木）オリエンテーション
　デッキ班3チーム、階段班3チーム、看板班2チームを編成
◎11月14日（木）現地下見・（仮想）施主との意見交換・測量
○11月28日（木）パース制作（スケッチ）
　企画プロポーザル（発表・施主を含む全員で投票）
　⇒ デッキ、階段、看板毎に1チームのデザイン案を採用
○12月 5日（木）～12月13日（金）設計図・積算・資材調達表の作成
　⇒ 図面、積算（入札）の教員チェック
　⇒ デッキ、階段、看板毎に1チームの図面、資材表を採用 ⇒ 最終調整
○12月19日（木）施工計画の作成　⇒ デッキ、階段、看板毎の班に集約
○1月9日（木）～10日（金）施工準備
◎1月11日（土）・12日（日）本施工
○1月16日（木）原価計算、ふり返り
◎1月17日（金）追加施工、完成



ツリーデッキ位置図

採用パース

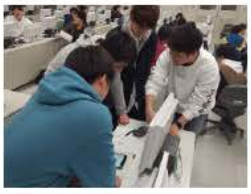
完成写真

4．取り組みの様子

①現地下見・測量

②企画プロポーザル

③設計図作成



④施工準備

⑤本施工：丁張り

支柱の設置

看板製作

道標設置

デッキ組立て

階段の寸法確認

階段の設置

看板設置

フェンス支柱設置

デッキ全体

フェンス支柱設置

5．まとめ

本プロジェクトにより、新たな観光スポットが完成した。施工作業中に観光客の方々に興味を示して頂く場面もあった。また今回の活動をキッカケに協力者の方と周辺の樹木伐採も行うことができ、眺望が大きく開けた。佐賀関半島はこれから観光シーズンを迎えるため、ツリーデッキが、入込み客の増加につながることを期待したい。今後は海星館や大分市観光課等と連携を強化し、半島全体での回遊性向上を図り地域活性化につなげる。

『地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト』

日本文理大学 工学部 情報メディア学科 小島 康史・星芝 貴行 研究室
株式会社 地域経済情報センター（求人ナビおいた）

●事業の目的：現在、新入社員の３年以内の高い離職率（大卒30%以上、高卒・短大等卒40%以上、中卒60%以上：厚生労働省サイトより）と、多くの学生の地元を離れ都心部への就職を希望する問題点が挙げられる。本プロジェクトでは、「雇用のミスマッチの軽減」、「若者の地元の定着率の向上」、「地元大学等から地元企業への就職率の向上」を目標とし、地元企業の魅力を発信する、「学生目線」によるプロモーション動画「リクルートビデオ」の制作を目的とする。

本プロジェクトの取り組み体制

●事業の内容：本事業は３年目の取り組みであり、過去２年間の状況を右の表に示す。再生回数の調査は令和２年１月９日現在のものである。各企業のリクルートビデオの制作は、1～4年生の混同チームで行い、制作ノウハウが後輩へ引き継がれるように配慮する。各チーム内で演出・撮影・音声・音楽・編集等の役割を決め、企業取材・ロケハン～撮影・編集、納品までを行う。

制作年度	企業名	制作動画	動画掲載	再生回数
平成29年度	株式会社 日祥鋼板工業所 http://www.usuki-kouhan.co.jp/		○	379
	株式会社 熊野建設 http://kumanokensetsu.jp/		―	―
	株式会社 双葉タクシー http://www.futabataxi.jp/		○	84
	株式会社 トキハインダストリー https://www.tokiwa-industry.co.jp/		○ ※期間限定	39
平成30年度	仲直トーヨー 株式会社 http://nakanokhi-group.com/		○	206
	社会福祉法人 庄内厚生館 http://www.kouseikan.jp/		○	54
	三光建設工業 株式会社 http://sanseisenko.jp/		○	32
	株式会社 大谷商会 http://www.otani88.com/		○	18

●事業の成果：今年度、制作した各企業の「リクルートビデオ」とその「学生目線による演出」を左下の表に示す。これまで、学生らが制作したリクルートビデオにおける演出では、「会社の雰囲気の良さ」、「給与制度の明確化」、「資格取得や指導体制」、「働き甲斐」、「安定した業績」等が多く取り入れられていた。これらは指導教員や連携企業によるものではない。これらの演出は、右下の表に示した、新卒採用向けダイレクトリクルーティング「OfferBox」（https://offerbox.jp/company/）による就活生の「働き方」に関する意識調査アンケートと、多くが一致しており、学生目線ならではの、一般の映像制作会社の制作する「会社紹介映像」とは異なったものであると思われる。このリクルートビデオ制作プロジェクトにより、各企業は「若者が求める企業情報」を得ることができ、新たな企業風土を構築・構築が可能になるのではないかと考えられる。今後、各企業の入社理由等に本プロジェクトがどのように影響したか、「地域の中小企業の雇用問題」がどの程度解決できたか（「雇用のミスマッチの軽減」、「若者の地元の定着率の向上」、「地元大学等から地元企業への就職率の向上」）を、調査を継続する予定である。

企業名	制作ビデオ	学生による演出
株式会社 大和電業社 http://www.d-yamato.jp/		・仕事をローテーションしながら研修を行っていることの紹介。 ・資格取得を奨励し手当てと受験に補助がでることを紹介する。 ・全社員が参加をする会議を設けていて会社の団結感を描く。
株式会社 ハヤシグリーンテクノ https://h-gt.co.jp/		・働きやすい環境に焦点を当てる演出とする。 ・庭の設計を通じた提案が感謝されることを提示する。 ・職人の社員から意見を集めることにより説得力が増す演出。
大分太平洋鉱業 株式会社 http://ota-taiheiyo.sakura.ne.jp/		・自然を有用利用している産業の紹介。 ・常に安定した業績であることを提示する。 ・地域の公共事業に積極的な貢献をしていることを描く。

どのような企業に魅力を感じますか？	
社内の雰囲気が良い	80.5%
給与、待遇が良い	64.0%
成長できる環境がある	59.5%
やりがいがある	59.3%
完全週休二日制	57.8%
将来性がある	55.5%
理念・ビジョンに共感できる	51.1%
安定した事業を続けている	42.6%
教育・研修に力を入れている	42.2%
給与が高い	39.6%
新しいことにチャレンジしている	38.6%
年齢に関係なく実力次第で昇給がある	28.2%
産休育休後の復職率が高い	27.1%
高い技術力を持っている	21.8%
知名度がある	20.5%
海外で働けるチャンスがある	17.6%
経営陣に魅力がある	16.9%
その他	4.2%

大麦料理を作って食べて元気になろう。

別府溝部学園短期大学　食物栄養学科　教授　牧　昌生
助手　佐伯由布　学生　巣野里歩　森口可奈恵　石澤芹那　副田音々

目的・方法

・玖珠町産大麦の消費拡大へ向けての商品開発

地域の**6次産業化**を目指す

・**大麦しいたけボール、大麦スコーン**の嗜好調査

・**大麦粉、もち麦**を使ったレシピ開発、商品化

大麦について

研究実施日程・活動の様子

○玖珠町元気応援！フェスタ

・会場：くすまちメルサンホール（令和元年10月19日）

・内容：玖珠町産乾しいたけ、大麦を使った「くす大麦たこ焼き」の試食、嗜好調査の実施。

○大分県農林水産祭

・会場：別府公園（令和元年10月26.27日）

・内容：「大麦しいたけボール」と「大麦スコーン」の試食、嗜好調査の実施

○ヘルスメイト合同研修会

玖珠町食生活改善協議会主催

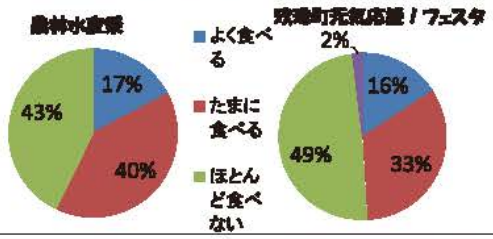
・会場：くすまちメルサンホール（令和元年10月29日）

・内容：近藤貴水さんによる大麦レシピを地域の方々と一緒に作り、交流を深めた。

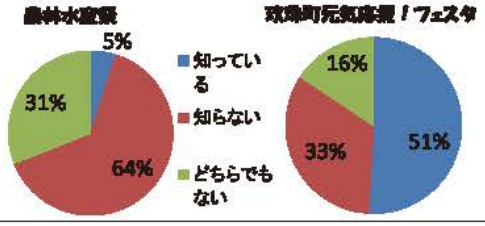
アンケート結果

回答数：農林水産祭94人
元気応援フェスタ51人

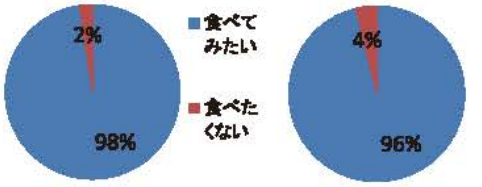
大麦をよく食べますか（%）



玖珠町で大麦を栽培していることを知っていますか（%）



商品化について
大麦ボール
（くす大麦たこ焼き）
をまた食べてみたいですか(%)



まとめと今後の課題

・大麦の特性と可能性

大麦は食物繊維が豊富で腹持ちが良く、血糖値の急激な上昇を防ぐなど、様々な健康効果が期待できる農産物である。麦ごはん以外に料理に使うことができる→

小麦粉のように家庭で常備できる粉類の一つとなる。

家庭での消費拡大→身近に販売→作付面積の拡大

・大麦しいたけボールの商品化

生地は焼き上がりの最後に油を足すことでカリッとした食感を出したが、時間が経つと柔らかくなり、見栄えも少し悪く感じた。明石焼きのように出し汁につけることでやわらかい生地の特徴を生かすことができる。

今回は商品化まではたどりつけなかったが、たこ焼き店へのレシピ提供を行った。また、家庭でたこ焼きを作る時に大麦粉を使ってみようという声は多数聞かれた。

大麦の特性を消費者に知ってもらい「健康食材」の意識付け

地域の子ども達と共に創る人形劇制作及び人形劇公演の取組

別府溝部学園短期大学　幼児教育学科　髙濱正文
藤田菜穂　加藤彩　木付安洋　吉田謙伸　和田愛梨　相田美咲
足立千夏　今村花永　江藤未来　川北麻尋　後藤麻衣子　重見沙矢花

目　的

○日出町に伝わる伝統行事である『かせどり』（子どもが生まれた家に大きな菓草履を届けるといった成長を願う行事）に関して、原山ボランティアクラブから指導を受け、学び、それをテーマに人形劇制作を行う。その取組により、地域の子ども達が伝統文化を知り、大事に継承しようという契機になることを第一の目的とする。

○人形劇鑑賞及び人形製作を通して、子どもと高齢者等、広く地域住民が交流する機会を設定することで、世代間交流をにらんだ地域活性化に繋がることも併せて目標とする。

体　制

【連携・協力組織】
○日出町教育委員会　○原山ボランティアクラブ
○高尾老人会　○山茶花こども園
○大神地区公民館
【参加学生】
○別府溝部学園短期大学　幼児教育学科12名

かせどり製作　2019.10.24/11.24《原山公民館》

かせどりの由来や概要を伺う

実際の衣装を試着

「結手 Musubi」「大足半 Ooashihan」

高打ちを体験

米俵作りを補助

原山地区23名との作業

原山ボランティアクラブの方々より『かせどり』の概要説明や実際に使われている「大足半」や「米俵」の製作にも携わらせて頂き、地元の方の伝統を守っていこうとする気持ちや子ども達への思いが、取組に参加させて頂いたことにより、体感することができた。

大神ふるさと祭り公演　2019.12.1　《大神小学校体育館》

例年開催されている「大神ふるさと祭り」でかせどりを題材とした人形劇『かせくんとどりちゃんのだいじなだいじなおくりもの』を披露した。

当日は約120名の参加者の方々に鑑賞して頂き、特に「かせどり」の場面では大きな拍手と歓声に包まれた。原山ボランティアクラブの方にも観て頂き、小道具など忠実に再現していることに大変、喜んで頂けた様子であった。

自分達で作成したかせどりの衣装を着て熱演！やはり「かせどり」の場面が一番の盛り上がりでした。

エンディングは日出町の「盆踊り」を太鼓のリズムに合わせて踊ってフィナーレを迎えました。

人形劇で使用する小道具製作を実際の製作工程を真似て作製

人形劇公演・製作　2019.12.13　《山茶花こども園》

山茶花こども園の園児や小学生と、高尾地区老人会、原山ボランティアクラブの高齢者の方々総勢54名に人形劇鑑賞して頂き、紙コップ人形製作の後、全員で音楽に乗せての三世代が交流を深める公演となった。参加した子ども達もお爺ちゃん、お婆ちゃんも一緒になって、笑い、歌い、踊る中で地域がひとつになったひとときであった。

小学生も人形に興味津々…

お爺ちゃんと人形製作

コミカルな動きに爆笑

子ども達がかせどり実演

かせどり衣装に大満足！

人形とペープサートを組用

オリジナル人形に大喜び

歌って！踊って！

かせどり見学　2020.1.12　《原山地区住民宅》

本宮八幡にお参りに…

タヌキに扮した子ども達

約二カ月間に渡り、準備されてきた『大足半』や『結手』が原山ボランティアクラブの皆さんの手によって三件４名の子ども達の元へと届けられた。

「かせどり」の訪問に驚きや喜びの表情が見られ、古くから伝わる伝統文化の意義を肌で感じることができた一日であった。製作に実際に携わった学生も喜ぶ子ども達の笑顔や暖かい家族愛に感動し、子ども達の成長と幸せを願うこのような行事が今後も途絶えることなく、続いていくことを切に願い、最後に、来年度の参加のお誘いもあった。

まとめ

伝統文化のひとつである「かせどり」を通して、たくさんの地域の人々が子どもを温かく見守っていくということに意義深さを感じ、企画した取組であったが、この活動を通じて、子ども達がその行事の意味を知り、地元愛を育むことのきっかけとなったと思われる。また、世代間交流の場の提供と伝統行事の継承への一助となることができたのではないかと考える。

保育を志す学生が今回の活動によって体験し、学べたことも多く、今後もこのような活動に参画し、引き続き、子ども達の未来や地域の活性化に少しでも貢献できるよう活動を続けていきたいと思う。

三世代交流型人形劇…完成！

謝　辞

今回の取組にあたり、日出町教育委員会をはじめ、原山ボランティアクラブ、山茶花こども園、高尾老人会と多くの方々のご支援、ご協力のおかげで無事、活動を終えることができました。

本活動ができましたことにたくさんの謝意を表すと共に“こども達のために”という理念のもとに今後もこのような取組が益々、活発に展開され、地域が活性化していくことに今後も携わって参りたいと思います。

地元の野菜をもっと食べよう！
～地域の野菜を知ろう　そして　子どもたちに伝えよう～

別府溝部学園短期大学　食物栄養学科　2年　児玉彩夏　津田麻莉香　　教授　望月美左子、田鹿光紀子、眞嶋さや

●目的：地域の食文化や地域の食の魅力を語る上で極めて重要であるといった観点から、昨年度は、絶滅寸前の大分伝統野菜やこれを材料とした料理やお菓子を次の世代に伝え継いでいく取り組みを行った。今年度は、昨年度に引き続き「宗麟かぼちゃ」の調理特性の検証と普及活動を進める。また、若者の野菜不足、子どもの野菜嫌いが問題となっている中、伝統野菜だけでなく「地元の野菜」に焦点を当て、地元の野菜をより食べてもらえるようなレシピを考案し、普及活動を行うことを目的とした。
●連携企業・自治体：大分県農林水産部・大分市農林水産部・日出町健康増進課・大分市（宗麟かぼちゃ農家）
認定こども園ひめやま幼稚園・日出町食生活改善推進協議会

昨年の発展～大分県伝統野菜「宗麟かぼちゃ」の活用～

●「宗麟かぼちゃ」の調理特性を調査、調理試作

「宗麟かぼちゃ」調理特性
加熱 ⇒ 水っぽく軟らかくなる

レシピ検討

どら焼き

シフォンケーキ

プリン

水ようかん

●公開講座「大分県伝統野菜料理」開催！

日時：2019年8月7日
場所：別府溝部学園短期大学
対象：公開講座参加者　18名
宗麟かぼちゃを使ったコロッケ、ラスクなどを紹介しました♪

●「宗麟かぼちゃ軽羹」を和菓子店と共同開発！

「宗麟かぼちゃ」と「小豆」の
絶妙なハーモニー♪
食べた方の評価は上々でした！

野菜摂取における問題点

問題点①　若者の野菜摂取不足（2019年国民健康・栄養調査より）
問題点②　子どもの野菜嫌い

●子どもの大分県産野菜に関する調査（留置き法直筆アンケート）
日時：2019年7月1日～8日
対象：ひめやま幼稚園に通う園児（0歳～5歳）の保護者92名

●好きな野菜Top3	●嫌いな野菜Top3	●食べてほしい野菜Top3
1位　きゅうり	1位　にがうり（ゴーヤ）	1位　ピーマン
2位　枝豆	2位　ピーマン、春菊	2位　トマト
3位　とうもろこし	3位　なす	3位　なす

レシピ検討

「嫌いな野菜を使ったおいしい料理」レシピ検討

●ベジップス

カリッとした食感で、おつまみにもオススメ♪
にがうりは、下処理をすることで苦みが和らぐ。

●ケークサレ

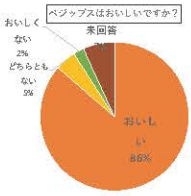
ケークサレはフランス生まれのおかずケーキ。みじん切りにした野菜とチーズがたっぷり入って栄養満点♪

●キッシュ

パイ生地にほうれん草と白ネギを入れた卵液を流しオーブンで焼いたおかずケーキ。パイのサクッとした食感と野菜の甘さ、卵のふんわり感を感じることができる。

開発したレシピの試食調査

●大分県農林水産祭にてベジップス販売、試食、アンケート調査
日時：2019年10月26日、27日
場所：別府公園
対象：ベジップスを試食した方44名
（男性10名、女性34名、高校生～60代以上）



自由記述欄
・ゴーヤがおいしかった。
・レンコンの歯ごたえが良い。

●ひめやま幼稚園にてケークサレをおやつとして提供、聞き取り調査
日時：2019年12月19日
場所：幼保連携型認定こども園 ひめやま幼稚園
対象：年長クラス41名

「おいしい」と答えた園児もいれば、「おいしくない」「にがい」と答えた園児もいた。
ケークサレに入っている野菜を答えることができた。
おかわりをする園児もいた。

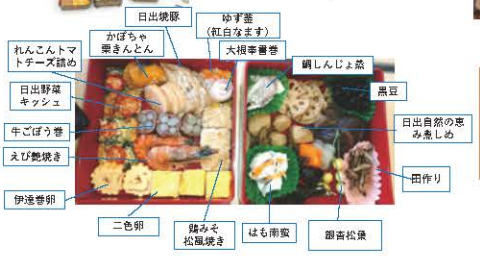
「お家でも食べてみたいですか？」

食べたい　58.5%
食べたくない　41.5%

地域との活動～日出町新おせち料理～

●別府溝部学園短期大学学生考案「日出町の特産物を使ったおせち料理」試作検討会
日時：2019年11月24日
場所：日出町保健福祉センター
※日出町食生活改善推進協議会との協同実施

・地域の方と世代を超えて交流できた。
・活発な意見交換をすることができた。



●「日出町新おせち料理」展示提案、嗜好調査
日時：2019年12月12日
場所：日出町保健福祉センター
対象：3歳児検診参加保護者、会場来場者30名
（30代10名、40代9名、他11名）

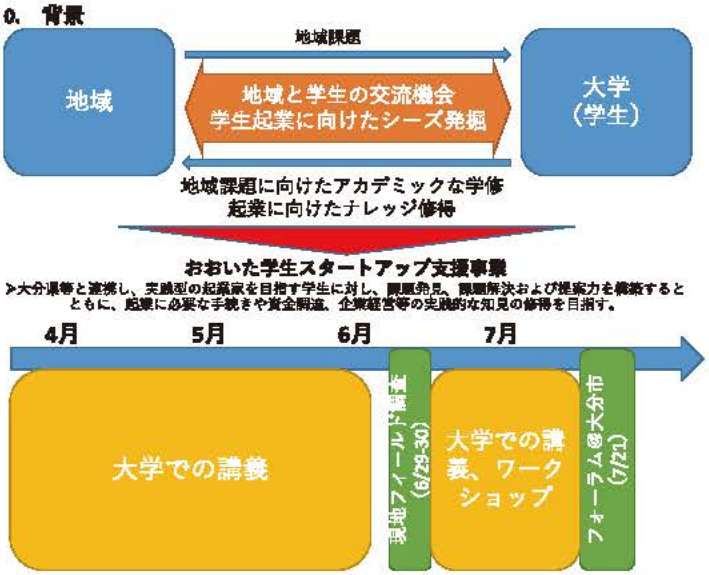
・嗜好調査では、最も食べてみたいおせち料理として「日出町産野菜キッシュ」が選ばれた。

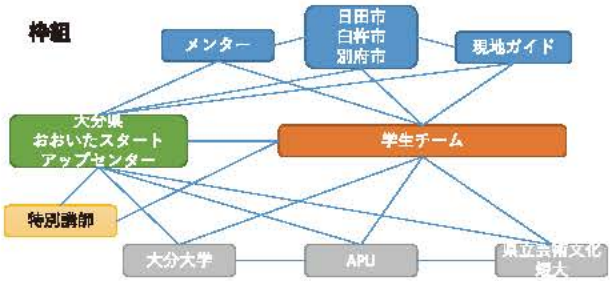
●共食
『日出町の特産物を使った新おせち料理』レシピ集の作成

●まとめ
◆私たち自身が、地元の野菜の存在や価値を知り、子どもたちや保護者、地域住民へ伝承していくことの重要性を学ぶことができた。
◆大分伝統野菜である宗麟かぼちゃのペーストを使った「宗麟かぼちゃ軽羹」を和菓子店と共同開発することができた。
◆子どもたちが喜ぶ野菜料理を考案し、幼稚園で提供することで、学生と子ども、学生と保護者、学生と教員との間に新たな交流が生まれ、お互いが地域の魅力をより強く知ることができた。
◆地域の方々との交流を通して、地域の食材の扱い方や料理法等を学ぶことができた。
◆地元の野菜の特徴や調理特性を知り、工夫して調理することで、地域の方々から良い反応を得ることができた。
◆今後は、野菜の特徴的な苦みをプラスに変える方法を考え、地元の野菜を多くの方が食べることができるよう、さらに検討、普及していきたい。

起業による地域創生（アイデア形成から実現へ！）

立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部　須藤智徳　銭　学鵬





1．本事業の目的

本年度大分県「おおいた学生スタートアップ支援事業」の一環として別府市、臼杵市、日田市を対象に実施した「地域起業塾」で、参加学生より提案された「地域創生ビジネス案」を地域住民とともに具体化し、パイロットとして実施することにより、学生と地域住民との交流を更に促進するとともに、学生が地域住民とともに活動する「場」と「コンテンツ」を作り上げ、もって当該地域の活性化に貢献することを目的とする。

2．実施内容

始めに本プログラムの概要を紹介したのち、学生よりフィールドサーベイの結果と地域活性化のためのプロジェクトアイデアをプレゼンした。その後、参加した学生と市民等との意見交換会を行なった。

（1）日田市での市民向けプレゼンテーション
日時：2019年12月7日（土）　13：00～14：00
場所：日田市複合文化施設AOSE
参加者：学生及び一般市民等　約30名

（2）臼杵市での市民向けプレゼンテーション
日時：2019年12月14日（土）　14：00～15：00
場所：臼杵市　久家の大蔵
参加者：学生及び一般市民等　約35名

（3）別府市での市民向けプレゼンテーション
日時：2019年12月21日（土）　13：00～15：00
場所：別府市役所
参加者：学生及び一般市民等　約35名

参加した市民等からのご意見と協働化の方向性

（日田）他県出身のAPU国内生や国際生から見た日田への印象がこれまでの自分たちの視点とは異なる等の意見が出され、他県出身のAPU生だからこその視点を活用した日田のPRにつながる情報発信アプリの開発をAPU学生と日田市民で進めていくこととなった。また、日田駅2階に開設されるガフェ・ゲストハウスの運営や活用にも参加学生が協力していくこととなった。

（臼杵）これまで気が付かなかった臼杵の魅力に新たな視点を与えられたことに感謝する意見が出されるとともに、今後学生と連携した街づくりを行なっていくこととし、臼杵市観光協会が全面的なバックアップを行なうこととなった。また、学生たちが提案した、臼杵の妖怪伝説に基づく「妖怪カフェ」が現地NGOとの連携で実施された。さらに、20年夏に向け、黒島でのイベントを学生とともに企画し実施していくこととなった。

（別府）これまでも別府とAPUは様々な連携が行われてきたが、継続的な活動がほとんどないことが指摘され、今後継続的な活動を模索することとなった。また、別府市湯山地区では、廃校となった小学校跡の活用や竹林、温泉の活用方策について学生とアイデアを出し合っていくこととなった。また、鉄輪地区では、湯治文化の普及に学生とともに取り組んでいくこととなった。

3．まとめ

本事業を通じ、受講学生たちの研究成果を地域住民と共有する機会となり、学生による新たなアイデアを生かした地域振興を図る活動を始めていくきっかけとなった。また、受講学生たちは、今回のフィールドスタディで地域の魅力を感じ始めており、今回、本事業を通じた協働を行なったことで地域住民とのつながりを深めることができた。今後、地域の魅力をより具体化するとともに、地域住民とともに地域活性化に更なる貢献を果たすことが期待される。

県産木材を利用した木育プロジェクト

プロジェクトメンバー

大分大学教育学部　准教授　中原久志
大分大学大学院教育学研究科　院生　手塚浩介，大津春輝，古本拓巳
大分大学教育学部　学部生　佐藤慶明，寺本夢空，西将輝，
小川ちひろ，菅遥加，その他 17 名

プロジェクトの目的と概要

本事業では，日出町児童館を拠点として，子ども達や地域住民に対して「木育」活動を実施し，子ども達の居場所づくりの提案（児童館の共有スペースにおける木材を利用した設備的側面），ものづくり活動の実践（体験的活動の提供・協働）を柱に事業を推進した。具体的には，

（1）学生が日出町児童館において児童館職員にヒアリングを行い，課題点・改善点の洗い出し
（2）居場所づくりに必要な木材を用いた教材・遊具等の提案・設計・製作・導入・評価
（3）発達段階に応じた木材を用いたものづくり活動の企画・実施
（4）地域活性に向けた取り組みの企画・試行的実践

を実施するものとする。事業の運営にあたっては，本事業申請者が日出町児童館と連携・協力し，学生を主体者とした活動を実践する。対象者として，児童館を利活用する子ども，保護者を位置づけた。

活動の実施状況

●子どもを対象としたものづくり教室（2019 年 10 月 26 日（土））
県産材のヒノキを用いた箸づくり（図1，2）
対象者：児童・生徒 51 名，参加学生 14 名
●親子ものづくり教室（2019 年 11 月 9 日（土））
県産材のヒノキ（大分川ダム建設の際に伐採された木材）を用いた円形木琴づくり（図2，3）
対象者：日出児童館を利用する保護者 31 名，幼児 35 名，参加学生 17 名
●日出児童館に設置する木材を用いた遊具の製作（納品 2020 年 1 月 11 日（土））
①県産材のヒノキを用いたスロープ型おもちゃ（図5）
②県産材の杉をメインに用いたままごとキッチン
使用対象者：児童館を利用する幼児，製作者：大学院生３名

図1　箸づくりの説明

図2　木工ラボのブースの様子

図3　円形木琴を親子で製作

図4　円形木琴に装飾

図5　設置したスロープおもちゃ

事業の地域への成果

本事業を通して，参加学生だけでなく，地域の子どもたちや保護者自身が，大分県の木材の魅力を理解することができていた。また，地域の拠点である児童館に県産木材を使った遊具を設置したところ，職員や保護者からの評価も高いものであった。本事業に参加した将来教員を目指している学生も，実践的指導力の育成や地域を題材とした学習の効果を知る機会を得ることができた。

大分大学／医学部　助教　土器屋　美貴子

事業名：共生社会の実現に向けて
～老若男女に，笑顔の花を咲かせよう～

1. プロジェクト体制
（1）指導者　〈現地指導者〉　一般社団法人共生社会実現サポート機構とんとんとん　理事長　山内勇人　他運営委員
〈大学側指導者〉大分大学　医学部　公衆衛生・疫学講座　　斉藤 功，土器屋　美貴子
（2）連携法人の名称　一般社団法人共生社会実現サポート機構　とんとんとん
（3）活動地域　佐伯市，大分大学（A .よろうや仲町：オレンジカフェ　さいき/ B. 佐伯市保健福祉総合センター：Run伴＋inさいき / C. 一般社団法人　共生社会実現サポート機構：とんとんとん食堂・広場)/ D. 大分大学医学部）
2. 参加学生　：　医学部　4年　15名（のべ人数）
3. 事業の目的
先進的に共生社会を具現化している連携法人の活動を体験し，課題の認識を行い，解決策を現場の方々と協議し，考えられた 解決策を実行する．また，このような活動を通して，共生社会を牽引する地域のリーダーとなる医師・看護師・保健師を育成することである．
4. 事業の成果
〈成果のまとめ〉
学生は地域共生に資する地域の一活動に参画し，連携法人が抱える課題の解決に取り組んだ．本事業は，今後大分県内に地域共生社会を拡大していくための一助となるものと考えている．
学生は連携法人の活動に参加し，並行してアンケート調査を実施した（①）．調査の結果より，複数回，とんとんとん食堂を訪れていた人は，自動車や徒歩・自転車にて，30分以内の場所に居住していたことを把握した．住民の身近に，何らかの病気や障害があっても集える居場所があると感じた．今後，他の地区においても，それぞれの住まいの近くに，このような場所があることが望まれると感じた．そのためには，まず多くの人に地域共生社会について知ってもらうことが必要であると認識し，チラシを作成した（②）．
また，法人の活動拠点である仲町商店街は，シャッターが閉まっている店が多い．その中で，学生とともに活動することで，他の商店店主より「商店街の活気が出る」等の声を聴いた．

現地指導者より説明を受ける

『Run伴＋inさいき』に携わる

「オレンジカフェさいき」と「とんとんとん食堂」の運営に携わる

関係者と意見交換を行う

① アンケート調査について
『地域共生社会』のモデルとなる一般社団法人「とんとんとん」の活動を通して，地域共生社会を実現する上での課題を明らかにすることを目的に，調査票を用いて，法人が関係するイベント開催時および法人の活動拠点であるとんとんとん広場にて，来場者と関係者を対象に，自記式質問票や聞き取り調査を行った．各項目とすべての項目について，χ2検定を行った．Q1.8.10について記す．図中の吹き出しは，当該回答について，有意差が見られた項目である（図1～5）．

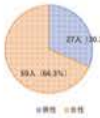


図1.回答者の性別割合

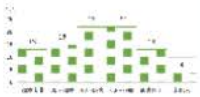


図2.回答者の年代

【Q. 1　ここに来たのは，何回目ですか.】

図3.来場回数

【Q. 8　身近な生活の問題（例：電球の取り換え，ごみ出し，買い物や通院のための移動）に対して，助けてくれる人はいますか.】

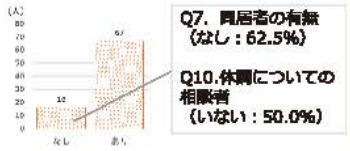


図4.協力者の有無

【Q. 10　からだのことや体調の問題について，相談する人がいますか.】

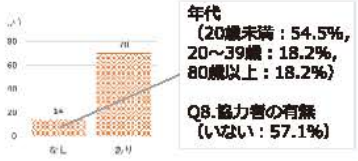


図5.体調等についての相談者の有無

② チラシ作成（A.現地配布用，B.高校生など若年層への周知用）
A. 現地配布用
・ 連携法人が感じている課題として，『 市民への広報不足』と『 「人的」　および「経済的」に不安定な運営』を挙げていた．
・ 初回来場者も4割程度みられたことと，商店街に位置するためと思われるが，「通りかかり」に初めて来店したケースが約15%みられた．2回目以降の来場者も，共生社会を意識している人がほとんどいないことがうかがわれた．
・ 毎回，カレーライスとデザートを100円で提供していた．その意味について，複数回議論した．これらを経て，「とにかく共生社会を多くの方に体験してもらうことが大事ではないか」という結論に至った．
共生社会について考える材料として，若年層に配布すること，および連携法人のことを「とんとんとん食堂」の来場者に知ってもらい，持ち帰ってもらうことを目的にチラシを作成した（図6）．

B.　若年層に共生社会の必要性について知ってもらうことを目的に，成果発表会にて来場者へ配布することを目的に作成した(図7)．

図6.現地配布用

図7.高校生など若年層への周知用

謝辞：本事業は，『大学等による「おおいた創生」推進協議会　実践型地域活動事業』の助成金を用いて実施されました．本事業の関係者ならびに調査にご協力いただきました方々，現地でご指導いただきました一般社団法人「とんとんとん」の関係者の皆様に深く感謝申し上げます．

IoTを用いた農業における課題解決

上原 優衣[1]　古島 孝晃[1]　草野 夏輝[2]　財津 天志[3]　寺崎 侑未[3]
中島 大雅[3]　野田 信[3]　船越 雅[3]　古庄 里子[3]　平嶋 太一[3]　大竹 哲史[3]
大分大学 [1]大学院工学研究科／[2]工学部／[3]理工学部

1. 何を実現したいのか？

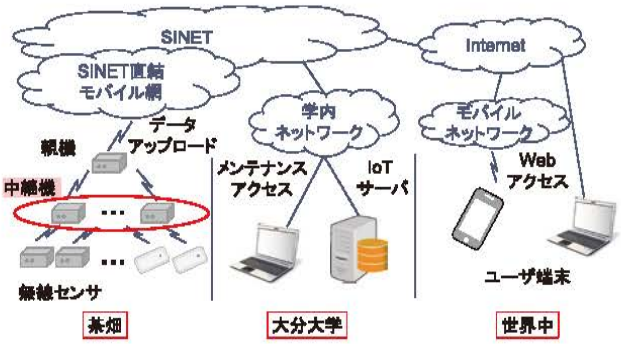
- 製茶における散水量の最適化（霜，乾燥，高温）
  - 茶畑環境を認知して散水の必要性を予測
  - 散水量（コスト）削減／茶畑環境（クオリティ）維持・向上
- 茶畑ごとの品質差の原因究明
  - 品質の向上・均一化

- 具体的には
  - 霜の発生予測・警告
  - 乾燥・高温時の警告
- 茶畑のセンシング
  - 土壌温湿度，大気温湿度・気圧，茶樹周辺温度の監視
  - 畑の位置ごとの茶樹周辺温度・土壌温湿度差等を調査

茶畑モニタリングシステムの構築

2. 本プロジェクトの目標

通信の安定化　⇒　中継機の再考・設置



- 中継機の主な考慮事項
  - 電力問題
    - 常に稼働する必要があるため電池駆動は難しい
    - ⇒ソーラー発電の利用
  - 天候(防水対策)
    - ⇒防水容器の利用

旧中継機(2019年3月)

- 今までの中継機の問題点
  - 夜間の電力不足
  - ⇒大容量蓄電システムを導入
  - 密封空間の発熱対策不足
  - ⇒防水パネルに変更し外へ

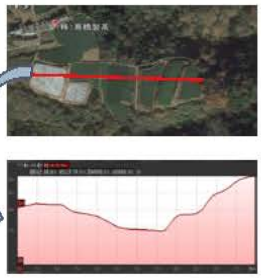
3. 改良中継機

中継機の主な構成要素

- 無線モジュール(TWELITE)
- ソーラーパネル
- DC/DCコンバータ
- バッテリ
- チャージコントローラ

4. 今期の活動

- 今期プロジェクトの成果
  - 中継機の再考による通信の安定化実現
- 継続中の活動
  - 中継機の最適設置
    - 現場でのアドホックな設置場所調査は時間がかかる
    - ⇒空間をモデル化して自動的に候補を選択
      - 標高などの地形情報，航空写真などを利用



- 土壌湿度センサ開発
  - 土壌温度センサは高価
  - ⇒正確な土壌湿度を測るのではなく土壌湿度の推移を把握
    - 安価な静電容量湿度センサの利用

5. 今後の予定

- 複数種類の子機の導入
  - 土壌温湿度
  - 気温・湿度(周辺環境)
  - 風向・風量
  - 照度　　など
- 中継機の増設
  - 茶畑をすべてカバー

屋外温度センサ

屋外温湿度センサ
(プロトタイプ)

大分大学 STEAM Lab. サイエンス × テクノロジ × アートの融合
～大分の未来を創る子どもたちの夢を育むプロジェクト～

大分大学／教育学部　教授　竹中　真希子

大学等による「おおいた創生」推進協議会　令和元年度地域活性化事業

Oita University STEAM lab.

大分大学STEAM Lab. サイエンス × テクノロジ × アートの融合
～大分の未来を創る子どもたちの夢を育むプロジェクト～

2019年12月21日（土）
武蔵保健福祉センター

クリスマス企画
プログラミング体験教室＠国東

国東市の小学生

国東市やその近くで開催してほしい

1位　プログラミング教室
2位　ものづくり教室（木工や工作）
3位　科学実験教室
4位　デジタルアート教室
　　AIについて学ぶ教室
5位　数の世界を学ぶ教室

スフィロミニ

ボール型ロボット
アプリケーションを使ってブロックプログラミングで制御する

プログラミング体験教室資料

遠隔地ではこういった事業への参加機会が少ない中，今回の企画はとても貴重です。

国東の子どもたちの笑顔が嬉しいです。

リーダー，初挑戦です。

国東市社会教育課の都倉さんと大分大学教育学部3年の小川さん

真剣な面持ちで最終打ち合わせ中

プログラミング体験教室スタート！！

子どもも学生もわくわく

スフィロで正方形を書く練習！
みんな真剣です。

クリスマスの飾りでコースをつくって，スフィロを自在に操ろう！

子どもたちの発想はどこまでも自由

楽しかったです。

楽しい時間はあっという間に過ぎました。

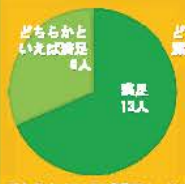
ねえ，来年も来て！

★ 事業に参加した学生の声

地域の教育への貢献
- 田舎の地域の子どもたちにこのような場合が嬉しいことに気付いた
- 子どもたちの地域活動を多くすべき
- 地域活性化のためにプログラミング教室はよいと思う
- ここまで来るのにも，保護者の協力が必要
- 地域内での親密感が高まった

感想
- とても楽しかったです
- 貴重な体験でした
- 来年もやりたいです
- 子どもたちの発想力におどろきました
- 色々な地域でやるととてもよい気がする

満足度



地域への貢献

どちらかといえば満足していない　0人
満足していない　0人

満足した理由
- 初めてのプログラミング教室の運営でもあったが，子どもの楽しんでいる様子をたくさん見ることができたため。
- 子どもたちと一緒に活動ができて楽しかった。またプログラミングの楽しさにも気づけました。
- 子どもたちが楽しんでくれたから。
- 子どもたちが教材に取り組む姿を見ることができたから。
- 子どもたちとの触れ合いの中で，新たな発想が見えたから。
- 子どもにどういう風に話しかけたらいいかなど，普段考えないことを考えることができたから。
- 子どもたちがプログラミングにふれるときに，何が重要になるかということがわかった。
- 楽しんでやっていたが，もう少し大学生に知識があると，満足の幅が広がったのではないかと思った。

令和元年度
実践型地域活動事業

きたく部 2019拡大版

大分大学教育学部 清水良彦／大分大学よりみちの会

放課後学習支援活動

×居場所づくり活動 ＝

きたく部公式キャラクター　きたくん
（デザイン：別府大学　高橋学監）

きたく部とは？

きたく部は「放課後、来たくなる場所、きたく部」をコンセプトに未就学児～中学生までを対象とした“放課後学習支援活動×居場所作り活動”を実施しています。平成30年10月に活動を開始しました。大分市稙田公民館で毎週月曜・木曜の週２回の活動を実施しています。大分大学と別府大学の学生が参加するボランティアサークル“よりみちの会”がアイデアを出しながら企画・運営しています。活動内容は以下の２つを柱とします。

「きたく部」
大分市稙田公民館にて毎週月曜・木曜日16:00～18:30の時間帯で実施します。ここでは、「やらなきゃ」（宿題・予習・復習）「やりたい」（自由な学び）「やろうよ」（交流）の“３つの学び”に挑戦します。

「きたく部〇〇の日」
２ヶ月に１回程度、不定期に開催するスポーツや文化活動のイベントです。「〇〇」には、子どもたちがやってみたいこと、みんなで楽しみたいことがなんでも入ります。子どもたちの声をもとに企画します。

写真１（左）　ウェルカムボード
（子どもたちが絵を描いてくれる）

写真２（下）　活動中の様子
（事業期間で参加者が倍増した）

きたく部の拡大！

拡大１　学校を超えた児童・生徒の交流を生み出す
平成31年4月から令和元年12月末までに60回開催、参加者数は延べ739名に増加しました（平成30年度：38回、550名）。さらに、これまでの大分市立稙田小学校・稙田中学校の２校に加え、宗方小学校、稙田西中学校、未就学児も参加し、学校を超えて参加者が集まっています。

拡大２　子どもたちの“成長”を保護者と共有する
きたく部に対する保護者のニーズは「宿題のサポート」や「学習習慣の確立」、「多様な体験・交流」などがあります。きたく部の活動を通した子どもたちの“成長”を保護者の方と共有することで、子育てをする上で抱える“困り”の解消をサポートすることができています。

拡大３　高校生・地域住民ボランティアの参加を目指す
高校生ボランティアや地域住民ボランティアの参加を募るため、令和元年10月、大分市ボランティアセンターからボランティア募集の情報発信を行いました。活動１周年を迎え、きたく部を拡大させていくための基盤として、ボランティア参加の拡大を目指しています。

写真４（上）　ボッチャの日
（きたく部でボッチャが流行）

写真３（下）　交流の様子
（年齢を超えて交流を楽しむ）

首都圏からの若年層おおいた観光誘致のためのモデルツアー提案に関するプロジェクト

小野実咲・小島大岳・櫻井将樹・寺田遊路・満行亮太（大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室）
大井尚司（大分大学経済学部門教授）　（協力）大分航空ターミナル株式会社、別府市観光課

①　背景と目的・研究対象

背景：　大分の観光と言えば？（各種の調査から）

- **観光客数・宿泊客数は増加**
  →内訳は：九州内が多、州外増加傾向
- **総合満足度は全国1位（じゃらん調べ）**
  →詳細は：特産品・土産物は評価低い
- **個人旅行の増加**
  →若者が少ない、ネット情報が少ない

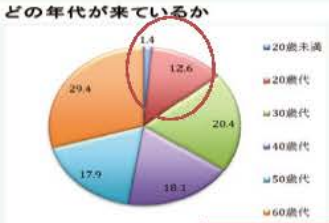
研究目的

大分県内の今後の観光情報発信
⇒観光におけるターゲティングの課題と魅力の伝え方についての提案

研究手法・対象

①ターゲットに合わせたモデルコースの構築
②モデルコース提案への評価：アンケート
③モデルコース内における現地調査の実施
【対象地域】別府、湯布院、大分空港ほか

②　モデルコースの提案（設定）とその意味について



女子旅

温泉で地獄蒸し（体内・外）体験　→　香りに癒され、スイーツに舌鼓　→　景色と泉質で癒し

大分空港に着いたその日に、日帰り（1日）で回れる内容

レトロ旅

昭和な街並みを歩く　→　落ち着いた空間で土地の味覚を　→　旅の思い出づくり　→　伝統のお湯で癒し

大分の課題
↓
若者、女性の比率低い

若者、女性はどんな旅形態？
☞ グルメ
のんびり
文化

これらへの訴求が必須
☞「女子旅」「レトロ旅」

③　この旅、受け入れられるか？：アンケート＋現地調査

大分空港でアンケート：旅行者の反応は？

- 「女子旅」よりは「レトロ旅」のほうが好反応
- 「温泉」「グルメ」は高評価、「体験」「街並み」は評価低い
- 土産物・食に関する「（地元ならでは）情報」の発信不足
- 別府湯布院以外の情報発信不足、両地も期待外れ

大分のアピール方法・内容に関する問題が課題

受け入れ側（現地）調査：設定の課題は？

- 情報発信：市、観光地ともＳＮＳ活用しきれず →人手・資金等
- 当事者理解は「若者に魅力的な場所がない」☞ あきらめ？
- 交通面は課題（2次交通）
- 提案コースにインパクト要：施設選定、テーマ（色、健康）

来てもらいたい、ただ発信等であきらめも？

④　モデルコースの先への提案―大分は何をすべき？

本当に若者に来てもらいたいのか？

- 資源はある（ツアーへの高評価）☞「あきらめず」組合せ、発信、共通認識を
- 若者を使って発信してもらえないか：ツアーを契機に発信を頼む、が第一歩か

大分の「観光資源組み合わせ」の課題

- 「ツアー」として一体的な商品・地域重伝の実施：テーマ性の強化、インパクトは課題
- 「グルメ」「温泉」は充足⇔それ以外のコンテンツの充実が課題（体験系）

大分観光バーチャル体験プロジェクト

（VRのデモがありますので是非，体験して下さい！）

東大輔,桑平隼弥, 西村千波, 山本剛士
梶川亮太,姫野祥智,光来出忠斗,吉田悟（大分大学）

概要

- 様々な分野からVR技術に注目が集まっている

  VR（バーチャルリアリティ）：人間の感覚器官に働きかけ、現実ではないが実質的に現実のように感じられる環境を人工的に作り出す技術の総称

- 近年、VR技術が手軽に体験できるようになった

  例）PlayStation ® VR、VRお化け屋敷、youtube

- 20代～60代までの男女1,207名を対象にVRに関する調査を行った中で最も体験したいVRコンテンツは「観光」であるという結果が発表された（株式会社Vlibar調査，2016）

目的

VR ＋ 観光 ＋ 大分

大分大学でのVR技術の研究を生かして
大分県竹田市の観光スポットを対象とした
大分観光バーチャル体験コンテンツの作成

竹田市地元企業、自治体との意見交換

協力団体

・くじゅう花公園　様

8/28 意見交換会

- 花の説明文が不十分かつ違和感
- 自然音の付与は好印象
- 1日の風景の移り変わりが見たい
- 作成したコンテンツの利用方法

6/25活動計画打ち合わせ

- タイムラプス撮影
- コンテンツの活用・改善
  - 季節にあった自然音の付与
  - 動画内に花の説明文を掲載

12/20 意見交換会

- HPでコンテンツの利用の検討
- 花の一日の変化を映像に

VR撮影機材

全天球映像用カメラ
RICOH THETA S,V,Z1
スマートフォンでの
遠隔操作にて録画を行う

＜THETA S＞ ＜THETA V＞ ＜THETA Z1＞

<解像度>
動画　＜　静止画
(3840×1920)　(6720×3360)

静止画の組み合わせによる動画
<タイムラプス>
による動画作成

コンテンツの
クオリティの向上!!

VRコンテンツ編集

・映像と音声の同期
・必要な場面の抽出
・Youtube用VR動画への変換

作業風景

打ち合わせ風景

・自然音の付与
　季節にあった音源を付与

臨場感の向上

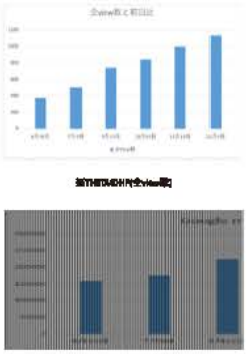
くじゅう花公園の撮影

春　夏　秋

SNSの活用

Instagramを活用した宣伝活動

Instagram



Google map

Instagram
QRコード

実践型地域活動事業　参加学生アンケート　集計結果

出前健康・体力チェック！
- 地域の方々が健康増進に興味があることを知った。だが、自分自身で測定することが難しいこと、病院などの公共の医療機関に行かないと測定できないことなどの問題点があることを知ることができた。

きばるプロジェクト
- 地域の現状を知らなかった。地域問題に関する学びと気付きがあった。問題を発見し、解決案を考え貢献できた。
- 地域住民ともっと交流したい。また、もう少し長期的に活動したい。

四季を通じた糸ヶ浜海浜公園における滞在学習型プログラムの開発
- 地域の課題に対していかに関心を呼ぶのか、事業を進める点でどのように運営を成り立たせるのかという新たな課題に気づいた。
- 地域が課題と思っていなかった事が課題であると感じた。

スポーツフィッシングがもたらす地域への効果計測
- 様々な年齢層の方の話を聞けて、面白い話もできて大学内では経験できないことが体験できた。地域の現状などを知ることができ、考えることで自分への成長にも繋がった。
- アンケート調査で様々な意見が聞けたので、その考えを自分の中にインプットし、より具体的に考えていきたい。今後様々な課題や解決策を導き出すことができると思う。

高齢者向けものづくり教材の開発
- 地域の人（高齢者、小学生、施設担当者）と接することができた。

佐賀関半島における観光交流人口拡大に向けたツリーハウス建設プロジェクト
- 多くの人がその場所を知らないのではないかと思った。今回の活動で人の目に入る機会は多くなったと思う。

地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト
- 女性でも働ける環境という意識が低いせいか、会社の男女比に大きな差があることが課題であると気づいた。今回の事業で少しでもその意識を改善することで、地域の活性化に貢献できると思う。
- 大学生の目線で地域企業を紹介することで我ら大学生たちが地域で働くことにモチベーションができると思う。このような企画が増えて地域のいろんな企業さんとも触れ合うことが出来ればいいなと思う。

大麦料理を作って食べて元気になろう。
- 地域の特産物を広めることができた。また、大麦の認知度の低さに気づいた。

地域の子ども達と共に創る人形劇制作及び人形劇公演の取組
- 事業に参加して日出町のことや「かせどり」について知ることができ、地域の方々がとても子どものことを愛していることが伝わり、日出町にとても良い印象をもつようになった。また、地域の子どもや高齢者の方とも触れ合うことができ、とても貴重な良い機会となり良かった。

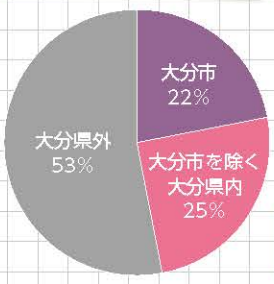
地元の野菜をもっと食べよう！～地域の野菜を知ろう　そして　子どもたちに伝えよう～
- 自分自身を含め、地域のことを知らない人が多いと思った。また、地域の活性化になったと思うが、もっともっと拡大して広めていけると良いと思う。
- 食をとおして地域のことをもっと知っていこうと思った。

起業による地域創生（アイデア形成から実現へ！）
- 実際に現地に向かい、地域の方々のお話を聞くことができて、普段知り得なかった日本全体の課題を知るきっかけとなった。
- 別府市役所で発表する機会をいただいたことで、実際に市民、市役所で働く人の声を聞くことができ、本当にやろうと思えば動ける環境であると感じることが出来た。

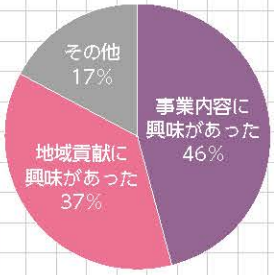
県産木材を利用した木育プロジェクト
- 他の地域でも同じような活動をして、地域での差を見てみたい。

共生社会の実現に向けて　～老若男女に、笑顔の花を咲かせよう～
- 大学では得られない学びがあり、体験したからこそ、その地域が取り組んでいることに対する課題が見えたり、解決策の糸口が多少見えたりした。
- 今回学んだことを（就職先となる）学校現場においてもつなげられるようにしていきたい。

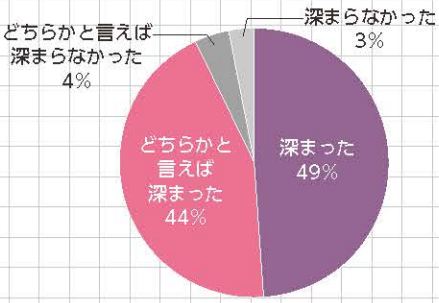
Q. 出身地はどこですか？



Q. どのような目的・動機で参加されましたか？



Q. 地域への理解は深まりましたか？



IoT を用いた農業における課題解決
- 少子高齢化が続いていく中で、人手不足の解消や農村地区における生産性向上の重要性を感じた。また、この事業はそのような課題の手助けに繋がると感じた。
- これまでの講義などでは実際にどのように社会や技術として役に立つのか、利用していくのかがイメージ出来ていなかったが、参加する事によって、以前よりイメージが明確になった点が特によかった。

大分大学 STEAM Lab. サイエンス × テクノロジ × アートの融合 ～大分の未来を創る子どもたちの夢を育むプロジェクト～
- 大分市等以外の地域の子どもはこのような機会がほとんど無いことに気付いた。今回の会場まで来るのにも、保護者の送迎が必要であり課題であると感じた。
- 単発ではなく、毎年開催すると、前年度の様子も発信でき、参加数が増えると思う。来年もやりたい。

きたく部 2019 拡大版
- 子どもの心の居場所を作ることができていると思う。子どもの元気は地域の元気につながると思うので地域の活性化に貢献しているといえると思います。
- 今後の活動継続のために協力を募っていきたい。

首都圏からの若年層おおいた観光誘致のためのモデルツアー提案に関するプロジェクト
- 地域の課題を見つけ、知ることができた。
- 地域の問題について深く考える良い機会になった。

大分観光バーチャル体験プロジェクト 2019
- 県外の出身なので、大分のことを最初はよく知らなかったが、活動を通じて大分の魅力に気づくことができた。
- 地域の方々と関わり合うことで、今回の活動が人や地域の役に立つということを実際に体験できた。地域の方々との関わり合いの大切さに気付けた。

かぜどり
どどり
Palette

調査

大学等による「おおいた創生」推進協議会　リカレント教育事業
おおいたの地域医療の課題とナースプラクティショナーの可能性

大分県立看護科学大学
小野美喜　甲斐博美　高野政子　森加苗愛　藤内美保　草野淳子　堀裕子　中釜英里佳
吉川加奈子 宮内信治　濱中良志　大嶋佐智子　村嶋幸代（演者）、光根美保（演者）

1. 事業目的：

おおいたの地域医療の課題に対応すべく、1)看護師は何ができるのかを考え、2)地域医療の中で多職種とともに協働する看護師の在り方を意見交換し、地域医療の活性化に繋がることを目的とする。

2. 事業内容：

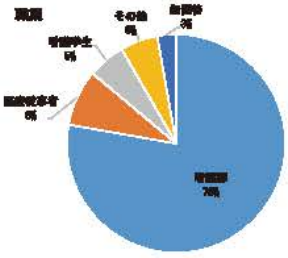
看護に創設の動きがみられる「ナース・プラクティショナー（NP）」の必要性と活動の実際を講師が話題提供し、参加者との意見交換会を実施した。

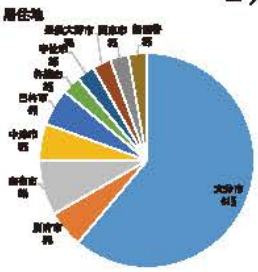
3. 講座の実施状況：

日時　令和元年12月13日（金）18:00～20:00
場所　J:COM　ホルトホール大分
講演1：　地域医療の課題と看護の役割拡大
講師　村嶋幸代　（大分県立看護科学大学　理事長・学長）
講演2：　実践からみえた地域医療の中での診療看護師の役割
講師　光根美保（大分県立看護科学大学助手 NP）
意見交換

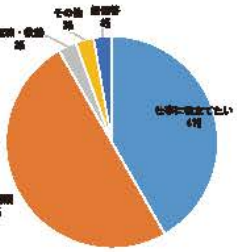
4. 参加者の状況 ：参加者61名

1）参加者の属性　（n=36）

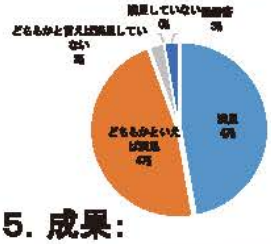




2）参加者の参加動機



3）参加者の満足度



参加者の具体的コメント
・NPの具体的な活動を知ることができた
・看護を基盤に医学的な知識や特定行為をどう活用するか具体的に知ることができた
・アセスメント能力が看護の質の向上につながるのかと感じた（看護管理者）
・訪問看護の管理者として学ぶことが多くあった（訪問看護管理者）
・専門的な看護の仕事の内容を知ることができて非常に興味深かった（看護学生）

5. 成果：

講師による地域医療の課題と看護の役割拡大に関する話題提供は看護職の今後を考える動機付けになった。さらに、ナースプラクティショナーの必要性と実際の活動紹介は在宅医療で活動する看護師への関心と影響が大きかったと受け止めている。ナースプラクティショナーの具体的な活動を知らなかった参加者（看護師や多職種）が知る機会となったことは大きな成果である。ほぼ満席の参加者であったことからも関心の高さがうかがえた。今後、看護だけではなく多職種と大分県の医療課題と医療職の役割を考えていく機会もあるとよいと考える。

大学等による「おおいた創生」推進協議会　リカレント教育事業

『宇佐駅』再生と『道の駅』創生を始点としたクラブライフの考え方

永松昌樹（日本文理大学）大坪史人（別府大学）

１．本事業の目的

「宇佐駅の再生」と２年後に予定されている「道の駅の創生」は、過疎化と少子高齢化の進む宇佐市北馬城地区にとって、大きな地域活性化のチャンスである。特急停車駅である宇佐駅は日豊本線にあって国東半島への玄関口と評されるものの、駅前の衰退は顕著である。本事業では多様な専門領域からの知見をインプットして、参加者が自らアイデアを生み出せるようなファシリテーションを実施した。本事業を通じて、国東半島・宇佐地域の活性化を超高齢社会となっている北馬城地区から発信することができるような奇抜で有用なアイデア想起を促すリカレント教育を施すことを目的とした。

２．取り組みの内容

2019 年 11 月 18 日（月曜日）：渡部 幹雄氏「フィールドミュージアム構想とは何か？」、永松「駅とまちの関係性を再考する」、北馬城地区に眠る貴重な史料を保存し展示する方法についてのアイデアを参加者から募り、具体化する方法について議論。

2019 年 12 月 2 日（月曜日）：大津 雄慈氏「道の駅のマーケティング“イロハ”」、大坪「道の駅が創生するまちの形」、既存の宇佐駅と新設が予定されている道の駅を北馬城地区の活性化に活用する方法についてのアイデアを参加者から募り、具体化する方法について議論。

2019 年 12 月 9 日（月曜日）：永松・大坪「『宇佐駅』再生と『道の駅』創生を始点としたクラブライフの考え方～再生創生クラブ事業化に向けて～」、開設される地区だけでなく、宇佐市内外を含めた関係する周辺地域への働きかけの必要性を強調するとともに、ボランティア活動としてではなく、明確なビジョンや目標を持った有志の集まりであることの重要性について説き、再生創生クラブの事業化について議論。

３．事業の成果

３回の講座を実施した結果、延べ人数にして６０名が参加した。地域創生のまちづくりにおいても特徴的な傾向として女性の参加が著しく低く、１０代の学生１名と５０代の英語講師１名であったが、“女性の視点を大切にする必要性”について、多くの男性参加者が認識するきっかけとなった。特に「道の駅」創生に関して、働き手となる方々の多くは女性であることや、消費者の多くが女性であるという観点に欠けていたことを、北馬城地区まちづくり協議会のメンバーが再認識した点で、女性参画の必要性を強調できたことは大きな成果であった。

また、５０代以上の地域住民の方々が、学生との協働的リカレントにたいへん興味を持ったことも成果であったと考えられる。外部協力者の渡部氏や大津氏による実学的な講話からもヒントを得て、学生たちとともに新しいアイデアを想起するワークショップはたいへん盛況であった。活発な話し合いが各テーブルで行われ、それぞれの立場からの意見交換は極めて活況であり、このような事業の継続的な実施を求める声が多く寄せられ、本事業の狙いであったクラブ事業化へのきっかけとなり、定期的な開催に向けて賛同する人たちが組織化に尽力したいとの申し出があったことは大きな成果である。

４．本事業のまとめ

本事業では、既存のまちづくり協議会においても話し合いが重ねられている地域の課題を、地区内外の人々がリカレント教育を通じて交流し、学びを実務に繋ぐための有益性を確認することができた。一つの課題を始点として有志が集って同じ目的を達成するために時間を共有することの大切さが再認識された。英国へ留学し、クラブを“倶楽部”と記した夏目漱石の意図は、趣味だけでなく地域活性化にも生かされる生活様式の紹介なのである。

「（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業」
～農業と世界のつながりと国内唯一の七島藺（シチトウイ）～

大学等による「おおいた創生」推進協議会　リカレント教育事業

実施機関：別府溝部学園短期大学 食物栄養学科 温泉コンシェルジュコース
連携企業・自治体：一般社団法人 大分学研究会、国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会、国東市、別府市

【概要】

別府溝部学園短期大学では学生や社会人を対象に温泉コンシェルジュの養成をおこなっています。その教育課程において、別府市及び大分県内の温泉をはじめ、自然・産業・文化・歴史など様々な視点から地域の価値を理解し、自らが体験することで、その魅力を観光資源としてとらえ、各地をつないだ観光プランをオーダーメイドで作成するスキルを習得した人材育成を進めています。本事業では、社会人が「大分の魅力を発信できる人材」の拡大を目指します。

【事業内容】

①講義：「農業と世界をつなぐ」　講師／林　浩昭
11月24日10時5分～11時00分　参加者：37名

講義内容
・七島イの説明（畳表の種類、栽培地域、農家の数）
・七島イ農家で育った林先生から生産者の想い
・七島イを昔の機械で裂く体験
・林先生の広報活動の取り組み（国内外で講演会、体験ツアー、映画、新聞）

林 浩昭
国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長
総合地球環境学研究所（京都）客員教授

大分県国東半島、七島藺畳表生産農家　生まれ
東京大学農学部農芸化学科卒業
東京大学大学院農学生命科学研究科助教授を経て、2004～大分県国東市安岐町両子に帰郷。
農林業自営開始した。国東で農林業の実践と情報発信を行っている。

講義

七島イに触る

七島イに触る

七島イを裂く体験

②ワークショップ：特産品の「七島イ」体験　講師／安達美和子
11月24日（日）11時05分～12時35分　参加者：37名

ワークショップ内容
安達先生の説明後、各グループに分かれてミニ台座と鳥づくり

ミニ台座

鳥

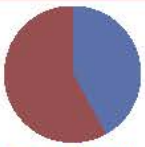
五感で感じる

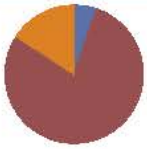
ミニ台座作り

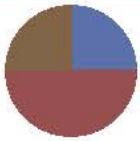
完成した鳥

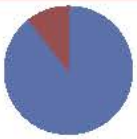
集合写真

【アンケート結果】（抜粋）









満足度
100%

参加者の声（抜粋）
・七島イや農業の生活が、他の地域の方からしたら、観光になると思った。・古くからある良い伝統なので、途切れることなく続いてほしい。・七島イを観光と結びつけたら良いと思う。・七島イのことは知らなかったのですが、今回講座を聞いてとても理解でき、七島イについて興味をもてた。・新しく知識を得ることができた。国東半島がもっと発展して、豊になればいいと思った。・七島イを編むことで、加工技術の難しさを感じた。

【まとめ】

大分県の遺産である、国東半島宇佐地域世界農業遺産は、地域の伝統文化、景観や生態系をまもるものである。講義とワークショップにより、七島イを栽培しているのは大分県国東半島のみであることや、栽培している農家は5件であり、七島イ農家や産業を守っていくために、情報発信をしていくことの重要性が理解できた。
本事業は、11月9日に開催した（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業」～荒木川流域を巡り、世界農業遺産の農文化と自然環境を体感する現地研修で、見学した七島イ農家の松原さんが栽培したものをワークショップで使用した。両方の講座に参加した参加者は七島イにふれ、体感することで、講義だけでは伝わらない大分の遺産を観光資源としてとらえ、「大分の魅力を紹介出来る人材」としてより深く学ぶことができたと考える。

（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業～荒木川流域を巡り、世界農業遺産の農文化と自然環境を体感する現地研修～

別府溝部学園短期大学／食物栄養学科長　牧　昌生

２０１９年　大学等による「おおいた創生」推進協議会　リカレント教育事業

「（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業」～荒木川流域を巡り、世界農業遺産の農文化と自然環境を体感する現地研修～

別府溝部学園短期大学　食物栄養学科　温泉コンシェルジュコース

概要（要旨）

●温泉コンシェルジュコース：本事業では、大分県内の歴史的な価値を理解し、自らが体感することで、その魅力を観光資源としてとらえ、各地をつないだ観光プランをオーダーメイドで作成するスキルも習得した人材育成

●目的：本事業では、世界農業遺産をとおした大分の魅力発信できるコンシェルジュを養成することを目的とし、“農・福・環”の連携活動を教育との連携することで“新たな観光資源”のプラン提案

●内容：本事業では、国東半島宇佐地域世界農業遺産の全体像とその魅力が理解するための現地研修を実施。エリアは、“クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環”を凝縮した国東市を流れる荒木川流域

●連携企業・自治体：立命館アジア太平洋大学　カゼム研究室、社会福祉法人　共生荘障がい者サポートセンター三角ベース、一般社団法人　大分学研究会、（株）文化財保存活用研究所、国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会、国東市、別府市

●国東半島宇佐地域世界農業遺産（H25認定）

●温泉コンシェルジュ商標登録（H30認定）

●事業主催　学校法人別府溝部学園

事業内容

事前準備

●連携自治体との打合わせ：2019年10月2日（水）

国東市役所　農政課、国東観光協会

●現地研修場所との打合せ：2019年10月16日（水）

国東市「ふるさと市場R213」、七島イ農家の松原正氏、椎茸農家の藤上智和氏、社会福祉法人共生荘障がい者サポートセンター三角ベース、やまのいえ

●ドローン撮影場所の調査：2019年6月～10月

●教材用のドローン撮影：2019年10月29日、30日

（株）文化財保存活用研究所　代表山路しのぶ氏　研究員山西秀樹氏

当　日

●現地研修：2019年11月9日（土）参加者：32名　場所：国東市荒木川流域　8時　大分駅出発

⇒9時　研修場所1　国東市里の駅「ふるさと市場R213」

⇒10時　研修場所2　七島イ農家の松原正氏の説明と織機体験

⇒12時15分　研修場所4三角ベース・やまのいえ

①「農・福・環」連携による自然農米と野菜の昼食
②「農・福・環」連携による祭・景観調の見学
③ドローン映像による「荒木川流域の全体像」
④三角ベースの組織と取組の概要
⑤三角ベースの加工品・農産物の説明
⑥荒木川について補足説明
⑦体験・映像・商品等から、新たな観光資源に関する「魅力発見のためのワークショップ」意見交換
⑧ 発表

⇒11時10分　研修場所3　椎茸農家の藤上智和氏の説明

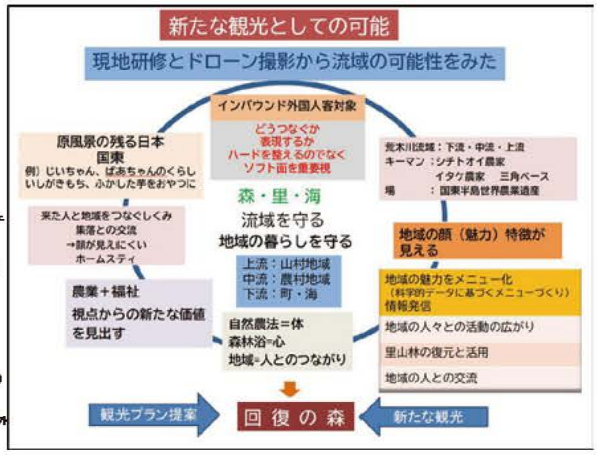
クヌギの枝葉で覆われた伏せこみ場の見学

シイタケ栽培とため池（新池）の見学

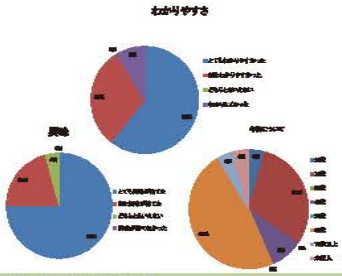
結　果

現地研修・教材をもとに　魅力発見のためのワークショップ

プラン提案について　抜粋
・朝採蔬の食材（今日の弁当の様な）を使って不定期でも良いのでレストランかカフェ
・川わたりなどの祭りをする・自然を使ったセラピーウォーキング＋現地の食材を使った昼ご飯
・自然農の開墾、あるいは山菜、植物を食べられるツアー
（野菜、山菜、椎茸は自分で採取したものを天ぷらや昼食弁当にして食べるツアー）
・野菜の収穫祭をする・荒木川流域めぐりウォーク
・上段からマウンテンバイクで下段まで下りながら、しいたけの林、三角ベース等を回るツアー
・七島藺の見学、お茶、枕崎したチップスで味（香りや音で楽しむなる）
・歩いて観光マップ（景色、郵便などを写真で撮れ）を作る
・屋外の人達とお茶のみ交流会（お茶菓子、地域の料理、飯島煎、食材）
・観光農園の観光ツアー開催（椎茸狩り、コマ打ち体験、バーベキュー等）
・観光チップスを開催し、各休憩所で昼作業のお茶、弁当を売る
・現在型のツーリズムの要素があれば（スコットランドのB&Bみたいな施設があれば）
・大無頭山の阿蘇との連携、歴史とこの地域との連携
・荒木川河口の見学、河口を探索
・世界農業・観光ツアーに、自転車道、遺産で地域まるごと、三角ベースまるごとギフト
・規模の水門、観覧の飲水場（ため池からポンプ～）
・自然農の宣伝、収穫・使ってない土地を利用して運動場を作る
・七島イのじゅうたん展示・タタラ展示のミニ体験、砂鉄採め



参加者のアンケート



印象に残った事新等　抜粋
・自然農の実践、感動しました。ドローン映像美しく、イメージが具体的になりました。
・シチトウイの転用に興味があり、残すべき遺産と思う
・七島イグサ、三角ベースの加工品、野菜、・説明が大変良かった。ドローン説明がより分かりやすかった
・シチトウイの農家、クヌギ林、自然農法の畑、ドローンにより荒木川全体像がとてもよく分かった
・国東地域の環境と人のあたたかさ、ドローン撮影でのわかりやすさ
・三角ベース・椎茸農家の取り組み、シチトウイ、不耕起農業・シチトウイの織機の経験
・When I tried the tatami making mashine.

まとめ

今回、国東半島宇佐地域世界農業遺産の魅力を体感し、“農・福・環”の連携活動で“新たな観光資源”を見出す可能性を学びとることができた。
「荒木川」に焦点をあて、地域をとらえたことで、下流・中流・上流と一貫した地域のストーリーを川から見ることができた。参加した社会人は、ツーリスト関係、日本造園修景協会大分県支部、国東市・地域おこし協力隊など様々な職種の方々で、現地研修とドローン撮影の映像から、流域の地域性を理解できた。これからの観光プランの素材として、荒木川流域のくらしそのものが地域資源として残っていることを知った。参加者は講師のリードのもと、その資源を活用して新たなモデルプランを考案した。そのプランは、「回復の森」といい「体・心・人とのつながり」がコンセプトで荒木川流域の下流・中流・上流を体験する地域の方との交流をメインとしたツアーである。今後、企画実現に向けて、教材のドローン映像をSNS等にアップし活用してもらうことで、社会人に対する学び直しと地域文化の創造や地域産業の振興の一助となりうると考える。

『大友宗麟のもとで豊後に花開いた西洋文化とその後』～ゆかりのグレゴリオ聖歌の歌唱や関連遺跡探訪を通して～

別府溝部学園短期大学／幼児教育学科　講師　松尾　佳保、食物栄養学科　准教授　土谷 知子

大友宗麟のもとで 豊後に花開いた西洋文化とその後

～ゆかりのグレゴリオ聖歌の歌唱や関連遺跡探訪を通して～

別府溝部学園短期大学：土谷知子（准教授）・松尾佳保（講師）　特別講師：竹井成美（宮崎大学名誉教授）・木内秀幸（大分学研究会キリシタン分科会座長）

第1講

日　時　10月13日（日）13:30 - 15:00

会　場　J:COM ホルトホール大分　サテライトキャンパスおおいた講義室

内　容　フロイスの『日欧文化比較』の内容と豊後府内で歌われたグレゴリオ聖歌の歌唱

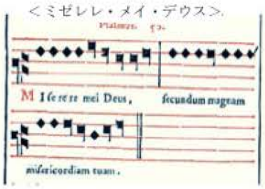
16世紀、豊後のキリシタン大名・大友宗麟のもとで花開いた西洋文化の実態を、フロイスの『日欧文化比較』や『日本史』などの史料から探るとともに、当時、豊後府内（現大分市）で歌われていたとされる“ミゼレレ”や“ヴェニ・クレアトル・スピリトゥス”などのグレオリオ聖歌を実際に歌ったり、さらにその後の関連遺跡を巡ることで、16世紀の豊後を追体験する。

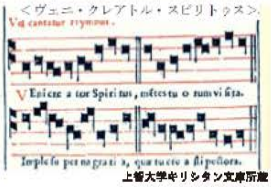
この講座を通して、大分の魅力を歴史的に再認識するとともに、大分の今後の地域の活性化へとつなげる。

●約450年前の府内（大分）はどんな様子だったのでしょうか？

16世紀の豊後府内では、大友宗麟のもとで西洋文化が花開いていた。日本人もまた、西洋文化に積極的にかかわっていた様子が歴史史書から伺える。大分が西洋音楽発祥の地とされる根拠は、1557年にヴィレラ書簡に『豊後府内に2つの聖歌隊があり、ポルトガルの宣教師たちと一緒に「ミゼレレ・メイ・デウス」などを歌った。』と書かれており、また1561年の復活祭のときには「デック・ノビス・マリア」「アレルヤ」「ラウダテ・ドミヌス」の3曲聖歌を歌ったことがフェルナンデス宣教師の書簡に書かれている。また、豊後府内の少年たちは、ヴィオラ・ダルコを携えて横瀬浦に遠征し、「デック・ノビス・マリア」や「ラウダテ・ドミヌス」の歌を披露したとある。

1562年、トルレス神父が横瀬浦（現長崎県西海市）へ転居したことにより、以後長崎で南蛮文化の花が大きく開花することになるが、豊後はその苗床となったと言える。フロイス（1532-1597）の『日欧文化比較』の内容から、本講座では当時の豊後府内の様子を知り、当時豊後府内の子どもたちが歌っていたとされる「ミゼレレ」を参加者全員で練習して歌い、大分の遺産として確認した。





上智大学キリシタン文庫所蔵

第2講

日　時　11月10日（日）13:00 - 17:00

会　場　臼杵・野津の関連遺跡

内　容　臼杵・野津の関連遺跡探訪

天草市 河浦町コレジョ館所蔵

フィールドワーク スケジュール

①孤懐キリシタン墓（十字墓・庄屋記念碑・石蓋）
②磨崖クルス（INRI・聖痕・カウワリオ）
③一ツ木地下礼拝堂（地下礼拝堂・マリア観音・抜け道）
④下藤キリシタン墓（国史跡・66基の墓・常珠墓・リアン）
⑤了仁寺（玄順・寺請制度）
⑥野津院古墓（十字架残欠・仲天連地蔵・礼拝所ほか）
⑦鍋田キリシタン墓および鍋田城

臼杵・野津には、臼杵藩・為政者側の史料である「マレガ神父収集文書」「南蛮誓詞」、キリシタン側の史料である「フロイス日本史」「コウルス徴収文書」「イエズス会日本年報」に書かれている遺跡群が現存している。これらは非常に貴重な遺産を実際に見て学ぶフィールド・ワークを実施した。また、バスの中では日本で初めて約450年前豊後に輸入されたかぼちゃ（宗麟かぼちゃ）について、その歴史や当時の豊後府内の食事事情等を解説し、現存する宗麟かぼちゃを使用した本学開発のシフォンケーキを参加者に配布した。一ツ木地下礼拝堂及び下藤キリシタン墓地においては前講座にて練習した「ミゼレレ」を歌った。参加者はみな熱心に観察し、身近にある歴史遺産に非常に驚き、声を上げて感動していた。

宗麟カボチャを見て触って食してみました！！

第3講

日　時　12月8日（日）13:30 - 15:00

会　場　J:COM ホルトホール大分　サテライトキャンパスおおいた講義室

内　容　フロイスの『日本史』などから16世紀の豊後府内の様子

上智大学キリシタン文庫所蔵

1579年に巡察師ヴァリニャーノが来日する。日本においてさらに布教効果を高めるためには、外国人宣教師による布教活動から脱し、日本人司祭による布教運動が必要なことを察知し、大友宗麟のもとで司祭養成のための教育機関として1580年に豊後臼杵にノビシャド（修練院）、豊後府内にコレジョ（大神学校）を設置した。本講座では豊後府内のコレジョで神学を担当していたゴメス神父による著書、1593年完成の『講義要綱』と、プレネスティノ神父が担当した秘跡の必修科目についてを『サカラメンタ提要』から、それぞれの教授内容について具体的に紹介した。当時、豊後府内での非常に高度な教育がなされていたことを知り、参加者の方々は驚きを隠せなかったようすであった。

まとめ：豊後は南蛮文化開花を導く苗床的存在

豊後大分は大友宗麟のもと、ザビエル、ヴァリニャーノらが訪問し、司祭養成のための教育機関であるノビシャド、コレジョが存在し、また、宗麟のサポートによりヴィレラ、フェルナンデス、ペレイラ、アルメイダらが活躍していた。

彼らの史書から豊後は西洋音楽、西洋劇、西洋医学、西洋式教育の発祥の地であることが分かる。そして豊後府内のコレジョで教授・受講し、その後大活躍した人々にフロイス、ゴメス神父、ペドロ・ラモン、ロドリゲス通辞、パウロ養方権がいる。さらに、史書に記されている遺跡群も多様に、そのままの形で現存している稀有な土地である。

この豊後の地を通らなければ、その後の大きな花は咲かなかったといえる。

「いきいき食生活支援プログラム」

～食に関する活動において活用するための知識とスキルを学ぶ～

東九州短期大学　首藤睦子　篠原壽子　池田敬史

1　趣旨

食に関連した、中津市内で活躍する住民組織リーダー及び県内で活動を行っている人を対象に、本学食物栄養学科で研究教育している専門知識を中心に、「中津市における食文化・郷土料理」や「災害時の健康維持のための食事の管理」について学習する機会を提供することにより、食に関する理解を深め、今後の活動に活かすことを目的とする。

2　経緯

9/26(木)　担当者会議（出席：中津市役所、本学担当）→ 10/31(木)　第1回目の講座実施
11/21(木)　担当者会議（出席：中津市役所、レスキュー・サポート九州、本学担当）→ 12/11(水)　第2回目の講座実施
12月～1月　「いきいき食生活支援マニュアル」の作成・配布

3　講座の実施内容

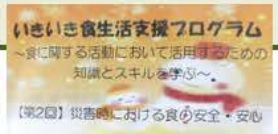
10/31（木）9:30～13：00　**＜第１回＞テーマ「豊前海の幸が育んできた食文化」**

【日　程】
1　開会
2　講演「豊前海の幸が育んできた食文化」
　　東九州短期大学　食物栄養学科教授　篠原　壽子
3　調理実習「お魚料理」
　　実習指導：（公社）大分県栄養士会　北部支部
　　（岩男　壽子、高原加津子、小幡　広子）
4　試食及び情報交換
5　総括

大分県や豊前海の魚事情及び魚の栄養について学習した後、旬の魚を使った調理実習を行った。その後地域で活用するための情報交換を行った。
（参加者数　28名）

12/11　（水）9:30～13：00　**＜第２回＞テーマ「災害時における食の安全・安心」**

【日　程】
1　開会
2　講演「料理に関わる衛生管理」
　　東九州短期大学　食物栄養学科教授　池田　敬史
3　実習「災害時における食支援」
　　実習指導：NPO法人　レスキュー・サポート九州
　　（木ノ下勝矢、高　美智代、井上　順、渡辺眞優美）
4　試食及び情報交換
5　総括

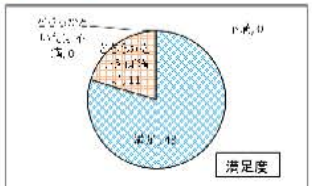


料理に関わる衛生管理（安全）について学習した後、災害時において常温保存できる食材を使った調理実習（安心）を行った。
その後、地域で活用するための情報交換を行った。　（参加者数　26名）

4　結果及び考察

ソーシャル・キャピタルの中核となる方々を対象に地域活動において活用するための知識とスキルについて全２回の講座を開催した。この講座は、第１回（地域の食文化）及び第２回（災害時の食事）と異なる視点の内容であったが、満足度は、第１回（満足75%、やや満足25%）、第２回（満足85%、やや満足15%）と参加者から高い評価があり、地域ニーズに合った内容であったと考えられる。

今後は参加者が、この講座内容を基に作成した食生活支援マニュアルを活用して地区組織活動を展開することにより、地域に広がることを期待している。



アンケート結果（延参加人数 64）

小学校教員のためのプログラミング&AI リテラシー教室

大分大学　教育学部

代表教員　市原靖士

１．事業の目的・目標

来年度より小学校においてプログラミング教育が正式に導入されることとなった。そのため、小学校の教員や各市町村の教育委員等からその指導方法など研修に対する要望が多い。そこで、本事業では、主に教員養成系学部の大学生や小学校教員を対象としたプログラミング&AI リテラシー教室を開催し、プログラミングの基礎から AI リテラシーについて指導方法や教材開発などを学んでもらう機会を創出することを目的とした。また、小学生にプログラミングや AI に対して興味関心を持たせることができる指導力をつけ、将来の大分での IT 人材の礎とすることを目標とする。

２．日時・会場

令和元年 11 月 30 日　9 時 30 分から 12 時（大分）

大分大学教育学部第一会議室

令和２年１月 28 日　14 時から 16 時 30 分（竹田）

竹田市立グランツたけた　小ホール

３．実施内容

(1)社会を取り巻く現状やこれからのニーズなどを踏まえ文部科学省がプログラミングを小学校に入れた経緯などの説明

(2)スクラッチベースのアプリケーションの使い方　四角形、三角形、六角形・・・多角形のプログラミング、円のプログラミング等実習

(3)ライトセンサーを使った明暗を判断する照明機器のプログラミング

(4)レゴ WEDO2.0 の基本的操作方法

(5)風風機、遠隔機のプログラミング実習

(6)質疑応答

(7)まとめ

＜事業成果＞

参加者の意見を聞くと「プログラミングについて実習を含めながらやさしく丁寧に説明をしていったことにより理解が深まった。」との声が多く、また、実際に自分でプログラミングをしてみることによって思っていたよりもずっとプログラミングは簡単であること実感してもらうことができた。参加者は、学生、一般社会人、教職員でありグループを混合させたためそこでの交流が別の効果としてあらわれた。学生はプログラミングがある程度でき教職員は学習内容をしっかり把握し指導方法も分かっている。この組み合わせでの研修会をすることによるシナジー効果は高いと考える。

４．取り組みの様子

①プログラミング教育の現状

②スクラッチによる正多角形のプログラミング

③センサーによる照明機器のプログラミング

④手回し発電機を利用した電気の効率的利用のプログラミング

⑤竹田市での取り組み

⑥竹田市 WeDo2.0

大学等による「おおいた創生」推進協議会　リカレント教育事業

教師のための国語科授業開発力育成講座

事業目的

（1）　国語科授業づくりに関する専門知、演習・協議の場を提供し、授業開発の基礎的実践力を育成する。
（2）　教員に不足しがちな同世代の交流、近接世代の交流を促進し、教員の自己学習力の育成する。
（3）　将来性のある優秀な国語科授業実践者を発掘し、応用・発展へとつながる専門知を提供する。

参加者の感想

国語の研修にはいくつか参加し、新しい学びというよりは大事なことを整理する、改めて自分をふりかえるということが多かったが、この会では久しぶりに新しい視点、見方、考え方が得られた気がする。それは読書現象を誘発する教材分析の手引きである。その中でも「観体陶酔」という考え方は目からウロコであった。

今日は楽しみにしていた蒼羽サークルでした。毎回のごとく、自分が今感じていることと、花坂先生のお話がしっくりきて、ああ、やっぱり私は今ちゃんと大切なことに気づけているんだなと自信がもてました。

日頃、時の授業では困りが多く難しく感じていたが、グループになった時に同じグループの〇〇さんや〇〇さんのお話を聞く中で、視点を持たせて鑑賞させることや花坂先生の教材分析の手引きを使うことで指導事項や子どもに考えさせたいことが明確になるということがわかった。

私は今日の研修ではじめて単元構想練習シートを書きました。単元構想をするとき、もっと時間をかけて、このようなシートを作成しなければいけないと思っていたけど、書く時間を短くすることで、本当に大切なことに時間をまわせることがわかったので、作業の時間を短くすることを心がけていこうと思います。

「今よりもっと楽しく！」の
教師生活を
サポートしたい！

県内のすべての小学校に配布したチラシ

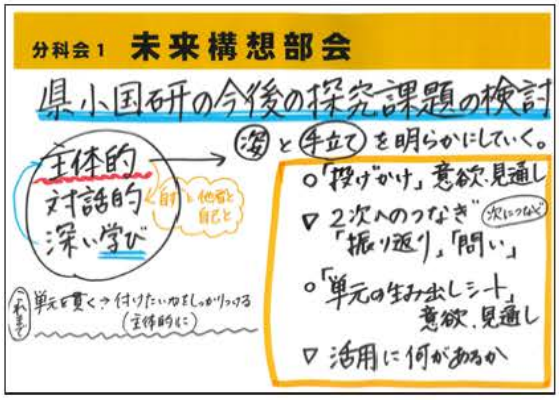
事業概要

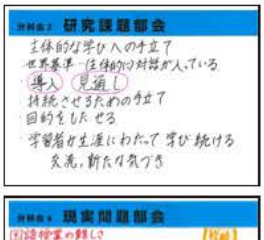
本事業では、2回の講座を開催した。

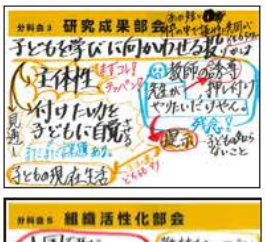
1回目の講座である「蒼羽サークル」（ビギナー世代を主たる対象とした基礎講座、11月30日開催、J:COMホルトホール大分）では最新の社会状況などを説明しながら、国語科授業づくりの基礎を講義の上、教育効果が高く評価されている学習材の紹介及び教材研究についての演習・協議を行った。講師は花坂歩（大分大学・准教授）が務めた。

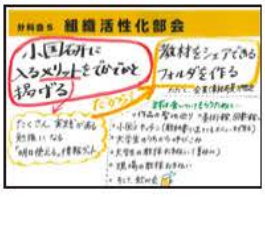
2回目の講座である「国語科授業研究会」（ミドルリーダーの養成講座、1月11日開催、別府国際コンベンションセンター）においては、花坂歩が牧英治郎（大分大学教職大学院・准教授）と共同で参加者の問題意識に配慮したスキルアップ研修（「小国研　令和2年度基調提案の検討」という研修講座）を実施した。

自ら学び続ける教師たちによる成果物









上述のスキルアップ研修では5つの分科会にわかれて、教師たちの問題意識、関心、解決策等の「見える化」を試みた。今回の分科会協議の結果を踏まえて、次年度の小国研の基調提案が作られることになる。

大分大学／医学部　助教　山本　俊介

研修医・若手医師のための、大分県麻酔科学アカデミー

麻酔科学から大分地域医療、日本・世界で活躍するためのキャリアについて学ぶ会

（＊大分県　大学等による「おおいた創生」推進協議会　リカレント教育事業）

大分大学医学部麻酔科学講座　山本俊介、中西理、北野敬明

事業の目的・目標

大分県内の各病院に勤務する卒後2年目までの初期臨床研修医を中心とした若手医師に対し、麻酔科学のトレンドやグローバル的スタンダードについて講義する。大分大学麻酔科学講座は県内の急性期周術期医療の最先端を広くカバーしており、地域に赴任する若い医師に最新の医療技術・知識とキャリアの面から分かりやすく伝え、各受講者がモチベーション高く医療に携われるようになることを目的とする。

事業の経緯

これまでに、同内容での講座（2016年6月に第1回）を自主開催、2019年8月まで8回継続して行い、それぞれ5～15名の参加を頂いていた。今回、2019年10月（第9回）、12月（第10回）、2020年1月（第11回）と、3回を本事業を活用し内容を充実させて開催した（下記参照）。各会に講師を2～3名ずつ配置し、講義形式と参加者によるディスカッション形式で実施し、お互いの知識を深めた。テーマは最新の麻酔科急性期医療、働き方改革、多職種連携（キャリア）等について取り上げ、指導者が講師を選定した。

	日時・会場	内容	講師
第9回	2019年10月4日 19：30–21：20 ホルトホール大分 （参加者21名）	講演第1部-1：小児科医から見た麻酔科診療 講演第1部-2：研修医でもできる！仕事につながるアフター5の取り組み方・楽しみ方～働き方（生き方）改革 講演第2部：周術期管理で習得する技術とこれからの麻酔科学	大分大学医学部小児科学講座 山口智之 大分大学医学部麻酔科学講座 山本俊介 宇部興産中央病院麻酔科 森本康裕
第10回	2019年12月6日 20：00–21：45 ホルトホール大分 （参加者18名）	講演1：麻酔科専門研修の始まり 講演2：大分県北での地域医療～麻酔科医の役割	大分大学医学部麻酔科学講座 米原敬博 大分大学医学部麻酔科学講座 浅井信彦
第11回	2020年1月10日 19：30–21：30 ホルトホール大分 （参加者17名）	講演1：休み明けの朝が待ち遠しくなる働き方のコツ 講演2：研修医も押さえておきたい超音波技術、今後の医師にとって不可欠な技術	大分大学医学部麻酔科学講座 篠原丈司（社会保険労務士） 横浜南共済病院麻酔科 渡邊至

アカデミー（セミナー）の様子

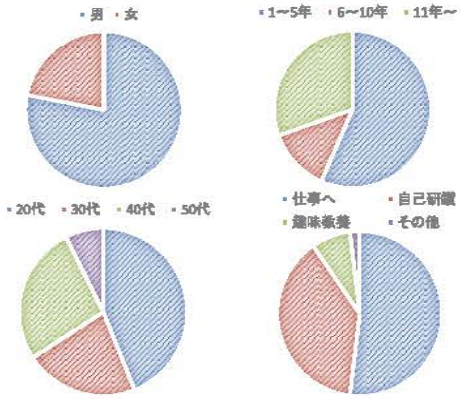
講演：小児科医から見た麻酔科診療

講演：研修医でもできる！仕事につながるアフター5の取り組み方・楽しみ方

講演：休み明けの朝が待ち遠しくなる働き方のコツ

講演：研修医も押さえておきたい超音波技術、今後の医師にとって不可欠な技術

参加者アンケート（性別、職歴、年代、動機）



ありそうでなかった講義だった（20代男性）
毎回新しいことを学べる、視野が広がります（20代男性）
来年からのビジョンが伝わった。研修医でもわかりやすく、モチベーションあがりました（20代女性）
人数と内容が良い、今後の進路の参考になった（20代男性）
職種が同じでも分野が異なる話が聞ける（20代男性）
こんなに対象、目的、内容がしっかりした講座はなかなかないと思います（20代男性）
他職種の方の貴重なお話を聞けたこと（30代男性）
医師の立場で社会全体のことも踏まえてお話いただけるので良い（40代男性）
仕事を充実させられる考え方を学べた、知見・考えが広がり刺激となった（40代男性）
面白かった、病院の中のことが分かって勉強になった（40代女性、介護士）
自分とは別の業種の方の話が聞け、参考になりました（50代男性、医療機器メーカー）

まとめ

過去に8回セミナーを実施していた経験から、継続した高評価を頂くことができた。セミナー開始当初の対象が卒後1～5年目の若手医師であり、狭く限定されたもののように思えるが、内容をシリーズ化して大分県内の医療従事者という幅広い枠組みで参加者が集まり始めている。セミナー講師の選定には時間をかけており、本講座で得た知見や見解は各自が今後社会に活かすことができるため、非常に有意義な事業として運営できたと考えている。

リカレント教育事業　参加者アンケート　集計結果

おおいたの地域医療の課題とナースプラクティショナーの可能性

- 教育係をしていてやはりアセスメント能力が看護の質の向上につながるのかなと感じた。
- 看護をベースに医学的な知識や特定行為をどう活用するか具体的に知ることができてよかった。

『宇佐駅』再生と『道の駅』創生を始点としたクラブライフの考え方

- 地域の活性に一歩つながったと感じた。“子育てのある家庭目線”を少し吸収できたと感じた。
- 若者と年配の考えやアイデアの違いがある中、共有し合うことで互いの気付きがあったり、また、地域の課題解決につながり、とても楽しい会だった。

（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業 ～農業と世界のつながりと国内唯一の七島藺（シチトウイ）～

- 七島藺のことは知らなかったが、今回講座を聞いてとても理解でき、七島藺について興味を持てた。
- 世界農業遺産になっていることを初めて知った。国東半島がもっともっと発展して豊かになればいいと思った。

（社会人を対象とした）世界農業遺産をとおした大分の魅力発信コンシェルジュ養成啓発事業 ～荒木川流域を巡り、世界農業遺産の農文化と自然環境を体感する現地研修～

- 地域の事情を理解するのに役立った。
- 『川で地域を切ってみる』という体験が面白かった。一貫したストーリーを川が作ってくれていた。

『大友宗麟のもとで豊後に花開いた西洋文化とその後』 ～ゆかりのグレゴリオ聖歌の歌唱や関連遺跡探訪を通して～

- 普通に生活しているだけだと全く頭に浮かばないような色々なことを考えたり、感じたりする機会を作って頂いた。自分の地域について見直すきっかけになった。
- 今後も大分ならではの地域資源を活かした地域活性化につながる活動を期待している。

いきいき食生活支援プログラム ～食に関する活動において活用するための知識とスキルを学ぶ～

- 新しいアイディアを聞くことができた。またこのような講座があったら受講したい。
- とても良い体験ができて良かった。地域のコミュニティでも教えてほしい。

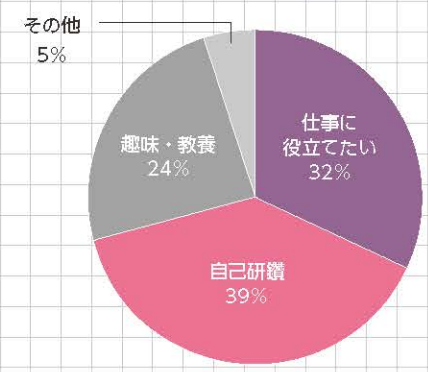
小学校教員のためのプログラミング＆AIリテラシー教室（竹田市）（大分市）

- 今までに体験したことがない教材で実際に学ぶことができた。
- 仕事に即役立つ内容で良かった。
- 面白い内容や教材であった。いろいろな人と関わり合いができた。

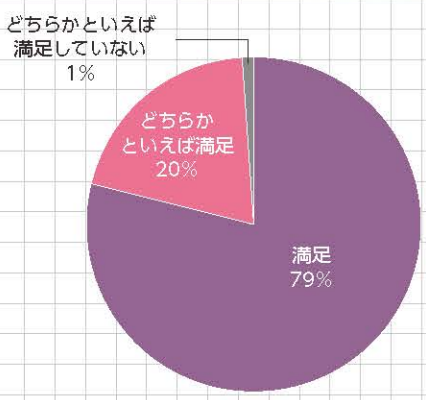
教師のための国語科授業開発力育成講座

- 最新の教育情勢を知ることができた。若手の先生方の課題もつかめた。教材分析の方法についてもレーダーチャートなどを使ってまなぶことができた。

Q. どのような目的・動機で受講されましたか？



Q. 受講した講座は満足のいく内容でしたか？



- 明日から使えるもの、10年後に使えそうなもののバランスが良く、満足感があった。
- 普段、仕事の中で考えられない「教育とは」「教材研究とは」について考えを深め、交流を広げることができてよかった。
- 仕事の効率化、新たな視点をもつことができた。こうした学びの機会をもっと増やしてほしい。

研修医・若手医師のための、大分県麻酔科学アカデミー

- 自分の知らなかったことを知ることができ、今後にどう活かしていくべきか考えさせられた。モチベーションが上がった。
- 仕事を充実させられる考え方を学べた気がする。
- 対象、目的、内容がしっかりした講座であり、これを大分県で実施していることに大変意義があると思う。継続してほしい。

地域活性化事業

成果報告会の実施

令和２年２月８日（土）、大分大学旦野原キャンパス学生交流会館ビ・フォーレにおいて、地域活性化事業成果報告会を実施しました。成果報告会は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）が実施した2019おおいた創生シンポジウムと合同開催となり、県内各地から約90名の高校生を含む200名以上の参加を得ました。

当日は実践型地域活動事業を実施した教員及び学生、リカレント教育事業を実施した教員ら、全ての事業の関係者にご出席いただき、参加者とポスターセッション形式での事業概要説明及び質疑応答が行われました。

参加者からは「より多くの中高生、そして先生や保護者の方に参加してもらい、大学生や先生方と交流できると良い。」「様々な団体が地域活性化のために活動していることが分かった。自分も何か地域のために活動してみようと思った。」等のご意見、ご感想が寄せられました。

来場者による
ポスターセッション投票結果

上位5位までを発表！

順位	大学等名	担当教員	事業名	掲載ページ
1位	別府溝部学園短期大学	幼児教育学科 准教授　髙濱正文	地域の子ども達と共に創る人形劇制作 及び人形劇公演の取組	12
2位	大分大学	理工学部 教授　古家賢一	大分観光バーチャル体験プロジェクト2019	21
3位	大分大学	教育学部 准教授　清水良彦	きたく部2019拡大版	19
4位	日本文理大学	工学部　情報メディア学科 教授　小島康史	地方創生のための学生目線による 地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト	10
5位	別府溝部学園短期大学	食物栄養学科長 牧　昌生	大麦料理を作って食べて元気になろう。	11

1位となった別府溝部学園短期大学のみなさん

参加学生の声

今回このような賞をいただくことができたのは、地域のお年寄りの方、子どもたちや人形劇の活動をサポートしてくれた先生や仲間のおかげだと思っています。

地域の伝統である「かせどり」を通して子どもたちの健やかな成長を願う素敵な行事であり、地域の方々の温かさを感じました。また、地域の伝統を私たちは、知るとともに次の世代へと繋いでいく必要があると感じました。

担当教員の声

「かせどり」に携わり、人形劇へと展開していく中で、学生が文化伝承の意義を知ることが出来たこと、子ども達や地域の方々との心の交流を図ることが出来たことは学生にとっても貴重な経験となった。

ポスターセッションで多くの高校生がこの事業に興味を示してくれたことは、高校生達自身が今後、様々な活動の担い手として成長してくれるのではないかという希望を感じた。

■お問い合わせは
大学等による「おおいた創生」推進協議会　高等教育活性化部会　事務局
学校法人文理学園 日本文理大学 大学事務本部 大学企画業務担当
〒870-0397　大分県大分市一木 1727
TEL：097-524-2658
E-mail：regionalwg@nbu.ac.jp